

平成13年度 国別特設「インドシナ地域・乱用薬物鑑定セミナー」特別案件調査団 報告書


平成13年12月

国際協力事業団

12
215
TIN
RARY

平成13年度 国別特設「インドシナ地域・乱用薬物鑑定 セミナー」特別案件調査団 報告書

平成13年12月

JICA LIBRARY

J1167962(8)

国際協力事業団
東京国際センター

東国セ
JR
01-497

平成13年度
国別特設「インドシナ地域・乱用薬物鑑定
セミナー」特別案件調査団 報告書

平成13年12月

国際協力事業団
東京国際センター



1167962【8】

序 文

本報告書は、平成 13 年度新規国別特設コース「インドシナ地域・乱用薬物鑑定セミナー」開設のために平成 13 年 10 月 13 日から平成 13 年 10 月 25 日にかけてラオス、ヴェトナム及びタイを訪問した特別案件調査団の調査結果を取りまとめたものです。

調査団派遣当時、本コースは「インドシナ地域薬物取締法執行能力の高度化に係る国際協力」という名称を用いていましたが、調査結果及びジェネラル・インフォメーション(GI)作成時の検討の結果、現行のコース名称を採択することとなりました。

「インドシナ地域・乱用薬物鑑定セミナー」は、カンボディア、ラオス、ミャンマー、タイ及びヴェトナムのインドシナ地域 5 カ国を対象に実施しますが、カンボディア、ミャンマー及びタイに関する情報は、社会開発協力部が平成 13 年 7 月から同年 8 月にかけて派遣した「タイ:薬物対策支援プロジェクト」第 1 回短期調査において収集した資料を活用することとし、本特別案件調査では主としてラオス及びヴェトナムに関する情報を収集しています。

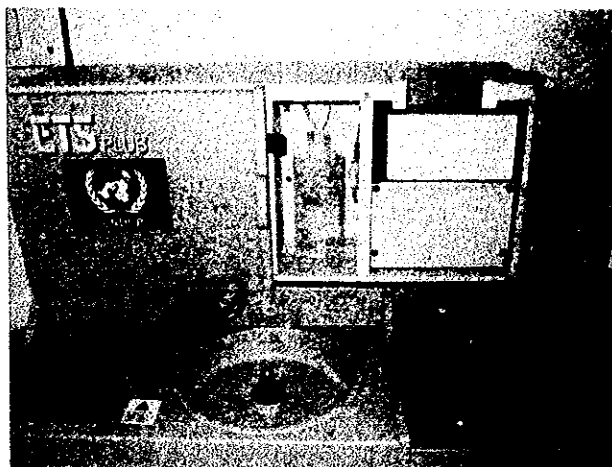
今回調査の最終成果品は、平成 14 年 2 月 26 日から平成 14 年 3 月 24 日にかけて実施される「インドシナ地域・乱用薬物鑑定セミナー」の研修カリキュラムであり、同コースに参加する研修員の適切な募集/人選であります。かかる観点から、本報告書末尾に同コースのジェネラル・インフォメーション(GI)を添付しています。

乱用薬物の鑑定というテーマを 1 カ国だけではなく、需要、供給及び流通が複雑に入組む地域を対象に実施し、各国の鑑定官が我が国に一同に介すことは、目標の統一、情報の共有という観点から非常に意義深いものであると考えます。

本調査実施にあたり、ご協力を賜った警察庁生活安全局薬物対策課、科学警察研究所並びに在ラオス、タイ及びヴェトナム日本大使館の諸関係者の皆様に改めてお礼を申し上げます。

平成 13 年 12 月

国際協力事業団
東京国際センター
所長 岩口 健二



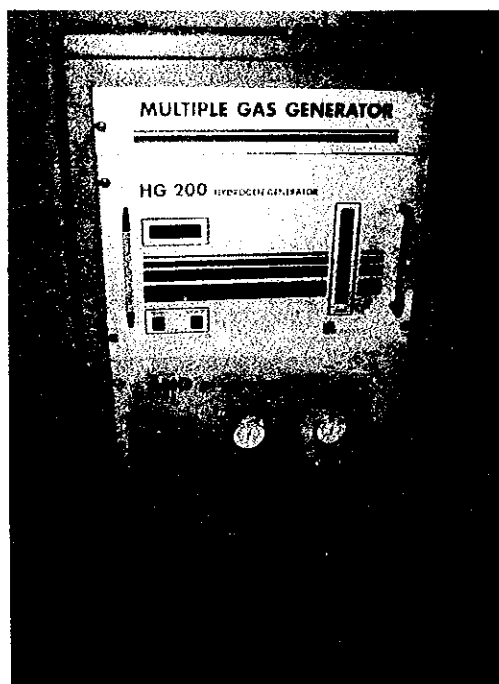
ラオス FDQCC : ETS(尿中薬物検査装置)



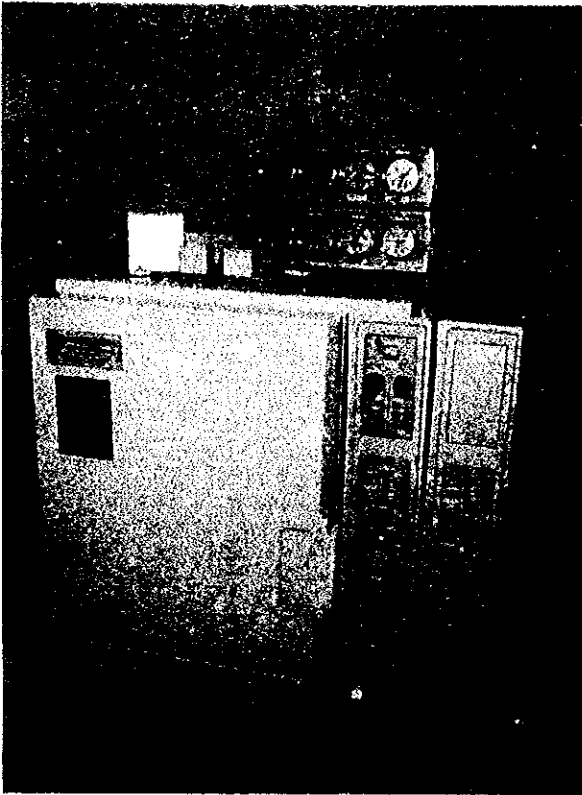
ラオス FDQCC : GC



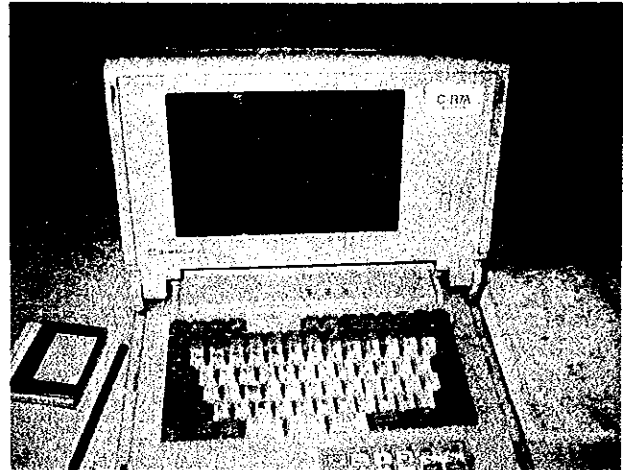
ラオス FDQCC : 押収薬物



ラオス FDQCC : GC 用ガス発生装置



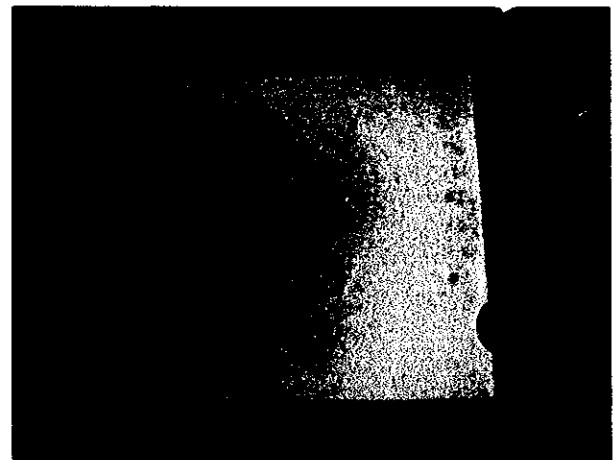
ハノイ IFS : シマツ製 GC



ハノイ IFS : シマツ製 GC 用データ処理装置



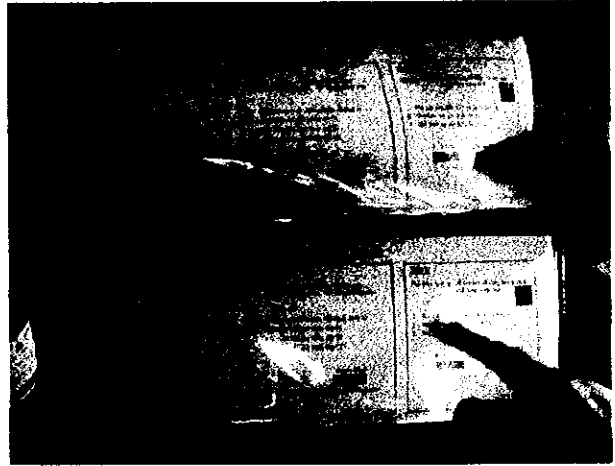
ハノイ IFS : 試薬



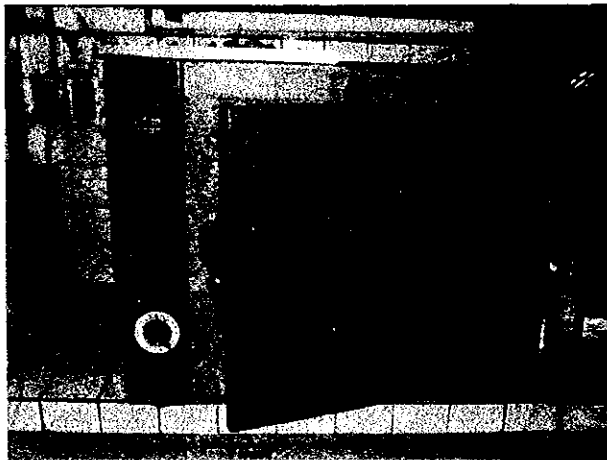
ハノイ IFS : TLC(薄層クロマトグラフィ)



ハノイ IFS : 薬物標品



ハノイ IFS : 薬物予試験キット



ホーチミン IFS : 旧東ドイツ供与機材



ホーチミン IFS : 薬物予試験キット

目 次

序文

写真

調査対処方針	1
日程表	4
調査時配付資料 1 (ESSENTIAL FACTS)	5
調査時配付資料 2 (COMPONENT OF THE CURRICULUM)	6
調査概要	7
ラオス面談議事録	10
ヴェトナム面談議事録	15
タイ面談議事録	21
大前団員の薬物鑑定技術に関する報告書(別添 1)	23

収集資料

別添 2 ラオス薬物犯罪関連刑法改正部分(英文仮訳)	29
別添 3 在ラオス日本大使館報告(薬物関連部分抜粋)	33
別添 4 VIENTIAN TIMES (調査団滞在時の 1 面記事)	36
別添 5 ヴィエトナム薬物犯罪関連刑法(英訳資料の表紙のみ)	37
別添 6 ヴィエトナム国家薬物対策委員会組織図	38
別添 7 ヴィエトナム薬物対策プロジェクト(案)	39
別添 8 調査団がタイ ONCB に報告したラオス及びヴィエトナムの調査概要	40

質問票回答

1 ラオス薬物鑑定機関	43
2 ヴィエトナム薬物鑑定機関/ハノイ	51
3 ヴィエトナム薬物鑑定機関/ホーチミン	60

参考資料

インドシナ地域・乱用薬物鑑定セミナーGI	69
----------------------	----

調査対処方針

調査計画名：特別案件等調査:インドシナ地域薬物取締法執行能力の高度化に係る
国際協力

相手国関係機関：タイ 薬物統制委員会事務局 (ONCB)
ラオス 内務省、国家薬物統制委員会等
ヴェトナム 公安省、国家薬物対策委員会等

国内関係機関：警察庁

1. 背景・経緯

覚醒剤・麻薬等の薬物の乱用は、世界各国で直面している共通の問題となっており、各国において薬物犯罪の取締り及び薬物禍防止のための施策が積極的かつ強力に推進されている。しかし、薬物犯罪は国際性が強く、これを根絶するためには一国だけでなく、地域規模及び地球規模で施策を講ずることが必要不可欠である。そのような背景のもと、ゴールドトライアングルを背後に控えるインドシナ地域を対象に平成 13 年度から標記コースを実施することとなった。

本コースは薬物鑑定能力の向上を目指すものであり、日本が有する高度な鑑定技術及び手法を技術移転し、より正確な鑑定結果を薬物犯罪取締捜査に提供することが目的である。また、2002 年度からタイ国薬物統制委員会事務局(ONCB)に対する社会開発協力部のプロジェクト方式技術協力案件が開始する予定であり、同庁はインドシナ地域における中心機関として、薬物鑑定に関する近隣諸国との協力窓口となる予定である。本コースはその一支援体制としての役割を担う。

2. 派遣目的

本コースは、2002 年 2 月下旬に実施が予定されているものであるが、対象国の薬物取締機関の設備、技術レベルは日本の現状とは大きく異なっている。そこで、コースの円滑な実施のために、当該国の薬物対策の現状を把握するとともに、当該国の薬物取締りに関するニーズを事前に把握し、コース実施時に適切な支援が行えるようにすることを本調査団派遣の目的とする。

3. 調査項目

(1) 薬物対策の情勢の把握 (Fact Finding)

調査手法 : 既存資料の入手、各種統計資料の入手 (Internet を通じ入手済のものも有)

調査対象 : ラオス及びヴィエトナムの犯罪捜査機関及び薬物分析機関

(2) 薬物取締における技術水準、装備資機材等 (特に鑑定施設) の現状把握 (Fact Finding)

調査手法 : 質問票に基づく聞き取り調査、及び薬物分析研究機関の視察

調査対象 : ラオス及びヴィエトナムの薬物分析機関

(3) 研修コース概要(案)の紹介及び参加国側の希望調査 (Discussion)

調査手法 : 別添 GI Essential Facts(案)及びカリキュラム(案)を紹介する。

右紹介を受けた参加国側の希望を聴取する。

調査対象 : ラオス及びヴィエトナムの犯罪捜査機関及び薬物分析機関及びタイ ONCB

(4) 対象国におけるコース参加者の選定プロセス (Discussion)

調査手法 : 調査項目 3)を受けて別添 GI Essential Facts(案)における Target Group 像を紹介する。

右紹介を受けた参加国側の選定プロセスを聴取する。

ラオス及びヴィエトナムにおいては、候補者のレベル、所属地及び研修修了後の役割を確認する。

タイにおいては、プロジェクト開始後のカウンターパート育成の観点から候補者のレベル、所属地及び研修修了後の役割を確認する。

調査対象 : ラオス及びヴィエトナムの犯罪捜査機関及び薬物分析機関及び ONCB

(5) ONCB で実施が予定される「薬物対策」プロジェクトへの参加意向確認 (Discussion)

調査手法 : 本分野の地域間協力を促進する観点から、現在計画中の同プロジェクトを口答により紹介の上、実施後の参加意向を確認する。

タイが実施する地域協力プログラムへの参加意向を確認するのではなく、

ONCB を介した日本の技術協力に興味を有するかを確認する。ラオス及びヴィエトナムの意向は、タイ調査時に ONCB にフィード・バックする。

調査対象 : ラオス及びヴィエトナムの犯罪捜査機関及び薬物分析機関

4. 団員の役割分担

- (1) 団長/総括 鶴飼彦行 JICA 東京国際センター業務1課課長代理
調査目的の説明、JICA の技術研修受入事業の概要説明
担当調査項目：(1)(4)(5)
- (2) 技術指導 大前義仁 警察庁科学警察研究所
薬物取締における技術水準、装備資機材等の現状把握
担当調査項目：(1)(2)
- (3) 企画調整 伊藤英明 警察庁生活安全局薬物対策課
研修コース概要(案)の紹介及び参加国側の希望調査
担当調査項目：(1)(3)

以 上

特別案件等調査団 「インドシナ地域薬物取締法執行能力の高度化に係る国際協力」コース

日 程 表

	月 日	内 容	宿泊地
1	10月13日 (土)	成田 16:55→21:25 バンコク (NH-7055)	バンコク
2	10月14日 (日)	バンコク 8:20→9:30 ビエンチャン(TG-690)	ビエンチャン
3	10月15日 (月)	JICAラオス事務所訪問 内務省薬物対策局訪問 ラオス国家薬物統制委員会(LNCD)訪問	ビエンチャン
4	10月16日 (火)	薬物鑑定機関(Food and Drug Quality Control Center:FDQCC)訪問 在ラオス日本大使館報告 JICA事務所報告	ビエンチャン
5 2	10月17日 (水)	ビエンチャン 9:45→11:05 ハノイ(VN-824) JICAヴィエトナム事務所訪問 ヴィエトナム公安省訪問 (警察総局薬物対策局)	ハノイ
6	10月18日 (木)	ヴィエトナム公安省刑事科学研究所訪問 ヴィエトナム国家薬物対策委員会(VNDCC)	ハノイ
7	10月19日 (金)	(Standing Office on Drug Control)訪問 在ヴィエトナム日本大使館報告 JICA事務所報告	ハノイ
8	10月20日 (土)	資料整理 (技術指導団員: ハノイ11:15→成田20:20 CX-794/NH-910)	ハノイ
9	10月21日 (日)	ハノイ11:30→13:00 ホーチミン(VN-217)	ホーチミン
10	10月22日 (月)	ヴィエトナム公安省刑事科学研究所訪問	ホーチミン
11	10月23日 (火)	ホーチミン 11:30→13:00 バンコク(VN-851)	バンコク
12	10月24日 (水)	麻薬取締庁 (ONCB) 訪問 D-T E C 訪問 JICA事務所報告	バンコク
13	10月25日 (木)	バンコク10:50→19:00 成田 (NH-5952)	

I. ESSENTIAL FACTS

Course Title (No.)	Regional Cooperation on Enhancement of the Capability of Drug law Enforcement (J-01-20199)
Duration	February 26, 2002 - March 24, 2002
Deadline for Application	December 26, 2001 for acceptance of the JICA office (or the Embassy of Japan)
Number of Participants	6
Language	English
Target Group ☆	Researcher or Chemists working in Narcotics Identification and Analysis Laboratory
Course Objectives	Through the seminar, participants are expected : (1) to understand the current situation and techniques on narcotic identification and analysis in Japan, (2) to understand and acquire the measures of narcotic identification and analysis.
Training Institution	<p>National Research Institute of Police Science Address : 6-3-1, Kashiwanoha, Kashiwa, Chiba, 277-0882 TEL : 81-471-35-8001 FAX : 81-471-33-9159 (81 : country code for Japan, 471 : area code)</p> <p>As the central organization of police science in Japan, it is engaged in research and development, identification and analysis, training and symposiums, and other activities by utilizing a broad range of disciplines, such as anthropology, biology, medicine, pharmacy, chemistry, physics, engineering, sociology and psychology. The institute has now established both domestic and international reputations in this field.</p> <p>National Police Agency of Japan Address : 2-1-2, Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo, 100-8974 TEL : 81-3-3581-0141 (81 : country code for Japan, 3 : area code)</p> <p>NPA is the authority to supervise and coordinate Prefectural police, which executes police duties, such as prevention, suppression and investigation of crimes, to maintain public safety and order in each prefecture.</p>
Accommodations	<p>Tokyo International Centre (TIC) Address : 2-49-5, Nishihara, Shibuya-ku, Tokyo 151-0066, Japan TEL : 81-3-3485-7051 FAX : 81-3-3485-7904 (81 : country code for Japan, 3: area code)</p> <p>If no room is available at TIC, JICA will arrange accommodations for participants at other appropriate places.</p>
Allowances & Expenses	<p>The Government of Japan provides the following allowances and covers the following expenses through JICA in accordance with relevant laws and regulations.</p> <p>Details: Round-trip air ticket between an international airport designated by JICA and Japan, accommodation allowance, living allowance, expenses for JICA study tours, free medical care for participants who become ill after arrival in JAPAN (costs related to preexisting illness, pregnancy and dental treatment are not included), etc.</p>

COMPONENT OF THE CURRICULUM (TENTATIVE)

1 Lectures and Practices

- (1) Analysis of Amphetamine-Type Stimulants
- (2) Methamphetamine Impurity Profiling
- (3) Physical Characteristics of Rapping Materials
- (4) Analysis of Opium Alkaloids
- (5) Analysis of Marijuana
- (6) Drug Screening

2 Country Report Presentation

3 Observation

- (1) Fingerprint Identification Center
- (2) Analytical Equipment Manufacturer (GC-MS / MS etc.)

4 Others

- (1) Study Tour to prefectural Police
- (2) Discussions

特別案件等調査:インドシナ地域薬物取締法執行能力の高度化に係る国際協力 調査概要

標記については、別添対処方針に基づきラオス、 베트남及びタイの3カ国について調査を実施した。各訪問先での議事録は次ページ以降に示すが、各国調査での概要及び団長所感を下記に記す。

記

1.概要

本調査は、平成13年度新規地域別特設研修を開設するために、研修概要を参加国関係機関に紹介するとともに、参加国の実情を調査することを主眼として実施したものである。

ただし、2002年度からタイ国薬物統制委員会事務局(ONCB)に対する社会開発協力部のプロジェクト方式技術協力案件が開始する予定であるため、実情調査部分は同案件のために作成された調査票を参考に聞き取り調査を実施した。

薬物鑑定官の技術レベルは、各研究所面会者の代表に審査を求めた。ラオス、ベトナムの薬物鑑定機関には、GC/MSは設置されていないため、業務上レベル4に該当する分析官は存在しない(ベトナムには、知識上レベル4に該当する者は数名いるとの回答)。

レベル3該当者の審査においては、GCメンテナンス可否に関する定義について、客観的な審査ができないため、あくまで代表者の主観審査に頼った旨を申し添える。

調査団が訪問したラオス、ベトナムの薬物鑑定機関には、必要最低限の機材が配備されているものの、分析研究官の人材育成については、UNDCPの協力無しには不可能な状況にある。したがって、両国関係者とも本調査団が紹介した地域別特設研修に対し、感謝と期待の意が述べられた。

ラオスとベトナムとでは、流通する主要薬物が異なり、前者はヤバー、後者はヘロインが主流である。

本地域別特設研修に寄せるタイ ONCB の期待は、ラオスとベトナム関係機関のそれとは大きく異なり、技術的な研修ではなくマネージメントを主眼とした研修が求められた。したがって、ターゲット・グループの記載においては、研究官から研究所長レベルに変更するようあわせ申入れがあった。

2. 団長所感

(1) ラオス

ラオス唯一の薬物鑑定機関(Food and Drug Quality Control Center : FDQCC)で、薬物分析にあたる研究官が 4 名であることが示すとおり、本地域別特設研修が 5 ヶ年の計画で実施された場合、候補者全員に本邦研修の機会が与えられるほど、人材が限られているのが同国の実情である。

UNDCP の機材提供を受け、同センター内には薬物分析専門のセクションがあるものの、FDQCC は保健省付属機関であるため、内務省薬物対策局は同局内に独自の薬物分析ラボを設置する希望がある。

JICA ラオス事務所長の発言にもあるが、本分野への協力については、専門家派遣により人脈を構築した上で、継続した情報交換が肝要であり、同国政府もそれを期待していると感じた。

(2) ヴィエトナム

共産圏である同国では、取分け公安省からの情報取得は難しく、薬物の押収量、犯罪件数といった統計については、書面での入手は不可能であった。その中で、国家薬物対策委員会(Standing office on Drug Control: SODC)は、UNDCP をはじめとする国際機関及び各国政府からの協力受入窓口となっていることから、公安省薬物対策局との比較論ではより多くの情報が入手可能であった。

ラオスと異なり、ヴィエトナムでは公安省に直接専門家を派遣することは不可能とされているため(JICA 事務所)、本邦研修及び現地セミナー開催を目的とした専門家の派遣等地道な人脈構成により情報交換を図る必要がある。

ヴィエトナム薬物鑑定機関は、限られた機材で薬物分析を実施しているが、ベトナム語による主要薬物分析教材を作成している等潜在能力の高さをうかがわせる面もある。

(3) タイ

本年 12 月に ONCB で実施される周辺国セミナー及びプロジェクト開始後に周辺国から参加者を招聘したセミナーと、本邦研修のターゲット・グループのデマケに関心が示される等、高い当事者意識とインドシナ地域のリーダーとしての責任感が感じられる。

ONCB の提案を受け、ターゲット・グループ及びカリキュラム骨子見直しの必要を感じた。

以 上

ヴェトナムとラオスにおける薬物鑑定官の人数と技術レベル

技術レベル	ヴェトナム				ラオス			
	公安省刑事科学 研究所(IFS) ハノイ		公安省刑事科学 研究所(IFS) ホーチミン		Food & Drug Quality Control Center			
	知識上	業務上	知識上	業務上	知識上	業務上	知識上	業務上
5								
4	4		1					
3	9	9	2	3	2			
2	9	13	3 *	3	2	2		
1						2		
0								
合計	22		6		4			

- ① 技術レベル 5：不純物プロファイリングができる。
- ② 技術レベル 4：GC/MS および IR を使った分析ができる。
- ③ 技術レベル 3：GC を使いこなせる。すなわち、以下の 3 項目が可能である。
 - ・検量線を使って定量分析ができる。
 - ・標品との違いについて推定ができる。
 - ・性能劣化に対応したメンテナンスができる。
- ④ 技術レベル 2：GC を使った定性分析ができる。
- ⑤ 技術レベル 1：TLC を使った定性分析ができる。

ラオス 調査期間：平成13年10月15日～10月16日

平成13年10月15日 JICA ラオス事務所

平成13年10月16日 同上 (報告:*部分)

面会者 青木 真 所長

正木 幹生 企画調査員

天野 博之 長期派遣専門家(保健医療政策アドバイザー)

議 事

冒頭調査団より、調査対処方針をもとに調査目的を説明。加えて、警察庁は、本件地域特設研修を含め、インドシナ地域に対する薬物対策に関する協力を重要視しているが、ODA 予算の削減から、援助の重点分野以外に関する協力については、各省会議の席において外務省から開発の優先順位を問う発言があったことを紹介した。

これを受けて青木所長からの発言概要以下のとおり。

薬物対策は、ラオス政府の重点分野の一つである。ただし、あらゆる面で開発が遅れている当国に於いて、JICA 事務所として国別援助実施計画上高い優先順位を与えることは難しい。JICA の協力として本分野を取り上げる場合、本邦・第三国研修による人材育成もあろうが、日本のプレゼンスをアピールするためには、短期専門家派遣によるセミナー開催が望ましい。その意味で、今年度要望した当該専門家派遣が不可能となったことは残念である。特に警察関連分野においては、専門家派遣による人的ネットワークの構築がない限り、情報の入手は困難であり、本邦専門家が現場を見ることが肝要と考える。

タイへの第三国研修(ONCB プロジェクトへの)参加については、候補者/推薦者の意向と上層部意志決定者の意向が異なることが考えられる。タイに対する感情は複雑なものがあり、キング・モンクット大学パートナーシップ・プログラムの成功例はあるものの、局長が OK してもその上位で覆ることが過去あった。タイを舞台に英語で講義される研修にラオス人が参加するメリットは少ないと考えられる風潮が感じられる。他方、ヴェトナムでの研修参加については、なんでも OK とする気風がある。

また天野専門家からは以下のコメントがあった。

ラオスにおける薬物対策は、Good Governance 分野として整理するよりは BHN 分野として整理すべきである。なぜなら、低所得の農民が現金収入作物として芥子栽培をおこなっており、取締り面をのみを強化することにより解決する問題ではないからである。当国の開発優先順位において上位にくるかではなく、本分野の場合日本の国益上優先分野として位置付けた方がよいのではないか。

保健省配属という立場から述べると、分析研究官のレベルは低く、機材も少ない。

- * 調査団の報告を受け、以下3点の申入れがあった。
 - ・(地域別特設研修に対する)フォローアップ機材が投入されることを期待する。
 - ・インドシナ地域5カ国を対象とする場合、開発が最も遅れたラオス枠を優先願いたい。
 - ・(ONCB プロジェクト開始後は)プロジェクト専門家の任国外出張によるセミナー開催等を検討願いたい。
- ※ ラオスでの以降の面談には、全て正木企画調査員が同行した。

平成 13 年 10 月 15 日 内務省薬物対策局

(Ministry of Interior, Drug Control Department: DCD)

面会者	Mr Thongpanh Chansoulimad	Director
	Mr Vantha Thammasith	Deputy Director
	Mr Bounsou Khampanisong	Deputy Head of International Relations

議 事

- 冒頭チャンソウリマッド局長より、薬物犯罪取締り及び組織概要について概要以下のとおり説明があった(タイ事務所岩崎企画調査員報告書(2001年1月)と重複部分は割愛)。
- ・犯罪者に対する刑罰が無期懲役から極刑に上げられた(参考資料別添2及び3)。
 - ・犯人検挙までには次の3つのステップを経る。すなわち①容疑者の割出し(Detection)、②逮捕状の取得、③逮捕である。犯人逮捕時にテスト・キットによる現場での簡易分析は実施していない。
 - ・薬物対策局は次の4つのセクションに別れ、総勢35名である(総務:7名、教育・広報:3名、国際関係:4名及び捜査:7名)。4セクションに加え、特別対策ユニット(Special Squad Unit:14名)がある。
 - ・特別対策ユニットには9県に支所があり、支所での要員は総勢180名、内28名がヴィエンチャン特別区に配置されている。
 - ・犯人逮捕後押収薬物をFDQCC(後述)に送り分析を依頼する。分析結果は、通常3~7日以内にDCDに連絡されている。
 - ・検察が立件し法廷に持込むまでに時間がかかり、容疑者の身柄拘束期間(3ヵ月)を延長することもある。

これに加え、UNDCP/在ラオス米国大使館の資金協力により、同局長自身が本年2月にタイで開催された捜査セミナーに参加した経緯が披露された。

この後、調査団より今回の訪問主旨を説明。本邦研修及びONCBプロジェクトへのラオス関係者参加について歓迎する意向が同局長より述べられた。他方、押収薬物分析について、現在は保健省管轄のFDQCCに依存しているものの、同局内独自の薬物分析研究所を設置したく、日本の協力が求められた。

平成 13 年 10 月 15 日 ラオス国家薬物統制委員会

(Lao National Commission for Drug Control and Supervision: LCDC)

面会者 Mr Linthong Phetsavan Director
 Mr Viroun Deputy Director

議 事

リントン事務局長は、前任のウンセン事務局長から約 1 ヶ月前に本ポストを引継いだ外交官であると自己紹介した上で、概要以下の説明があった。

- ・ LCDC は、UNDCP からの協力受入窓口としてラオス政府が設置した機関であり、7 省庁(機構図等による裏付けは無し)にまたがる薬物対策関連事業の事務局である。LCDC 自体は独自のプロジェクトを実施するものではなく、UNDCP からの資金援助を得て、各省がプロジェクト実施の責任をおっている。
- ・ ラオス全県(18 県)に LCDC の支所が既に設置され、捜査面では前出の DCD 特別対策ユニットと連携をとっている。
- ・ 薬物対策は、国の重要課題の一つであり、2001 年度は ASEAN 薬物対策委員会の座長をラオスが務めている。さる 10 月 12 日には、首相主催の薬物対策募金集会(Gala)を開催し、1 億キップの募金を集めた(参考資料 別添 4)。ただし、目標額は US\$8,000 万であり、各国の更なる資金援助が必要である。

この後、調査団より今回の訪問主旨を説明。本邦研修及び ONCB プロジェクトへのラオス関係者参加について歓迎する意向が同局長より述べられた。また研修候補者の適切な人選を調査団から求めたのに対し、応募書類は JICA→DIC(後述)→LCDC の流れを経るだろうが当委員会が受領した時点で、適切な人選がなされるよう配慮したいとの回答を得た。

調査団は、本面談後 UNDCP 資金協力により建設中の、薬物中毒者リハビリセンターを視察した。

平成 13 年 10 月 16 日 ラオス薬物鑑定機関

(Food and Drug Quality Control Center : FDQCC)

面会者 Mr Syviengxiai Chittavong Deputy Director
 Ms Vongsavanh Insixiengmay Head of Administration Division
 Mr Ot Manolin Head of Narcotic Division
 Ms Vongmanee Head of Division (Forensic Lab.)
 Mr Keophilavanh Deputy Chief of Microbiology Division

議 事

本年 1 月にタイ事務所岩崎企画調査員が面談したラサミー所長は、調査団訪問時豪州

で開催中の薬物対策の国際会議出席により不在であった。調査団との面談は、同センターで薬物分析に従事する検査官全員(=ラオスで薬物分析に従事する検査官全員)の出席を得て実施した。

同研究所は保健省の所管機関であり、総勢 29 名の要員中 4 名が薬物(Narcotics)分析にあたっている。内 2 名が主として押収薬物分析に当たり、残る 2 名が生体検査(尿検査)を実施している。同研究所は 1994 年に開設され、薬物分析部門は UNDCP の資金協力により 1997 年に開設された現時点でラオス唯一の薬物分析機関である。UNDCP の資金協力により南部地域に新たな研究所が設置される予定を確認したところ、計画として検討されたが、資金不足により実現化されていないとの回答を得た。

設置機材は岩崎企画調査員調査時と変化はなく、全機材が稼動していたが、一部機材にスタビライザーが設置されていないため、電圧変動による故障の恐れがある。

技術レベル審査については、~~機材~~のとおり。

調査団からは、地域別研修の概要を説明の上、ラオスの場合ターゲット・グループは同研究所員であるため、適切な人選を申し入れると共に、研修は英語で実施されるため次年度意向に研修参加を希望する者については英語のトレーニングも必要である旨申し添えた。

平成 13 年 10 月 16 日 ラオス計画協力委員会国際局

(Department of International Cooperation, Committee for Planning and Cooperation: DIC)

面会者 Mr Bountheuang Mounlasy Director General

渡辺 肇 援助調整専門家

議 事

海外からの技術協力受入窓口機関である同局長に対し、調査団より今回の訪問主旨を説明。本邦研修及び ONCB プロジェクトへのラオス関係者参加について歓迎する意向が同局長より述べられた。これに加え、日本の専門家派遣によるセミナー開催に対する希望が上げられた。

渡辺専門家からは、研修タイトル"Regional Cooperation on Enhancement of the Capability of Drug law Enforcement"と研修目標"The main purpose of the course is to provide participants with an opportunity to improve the techniques on narcotic identification and analysis to enhance the drug control capability"との間に乖離が感じられるため、ターゲット・グループ及びカリキュラム(案)に関し、確認の質問があった。

平成 13 年 10 月 16 日 在ラオス日本国大使館

面会者 川田 一徳 一等書記官

川崎 貴道 副領事

議 事

調査団より調査主旨及び調査結果概要を報告した。

川田書記官から、インドシナ各国における、ラオスの薬物分析技術水準に対し関心が示され、調査団よりカンボディアよりは高水準にあるもののミャンマーと同等程度ではないかと回答した。

ベトナム 調査期間：平成13年10月17日～10月22日

平成13年10月17日 JICA ベトナム事務所

平成13年10月18日 同上

面会者 小林 広幸 所員 (研修担当)

子浦 陽一 所員 (公安省担当)

議 事

冒頭調査団より、小林所員に対し調査対処方針をもとに調査目的を説明。10月17日の第1回打合せ時には、鑑識分野の短期派遣専門家によるセミナー開催当日にあたったため子浦所員不在により、同所員とは翌日打合せを実施した。

公安省関連分野に対する協力について、子浦所員から概要次の説明があった。

- ・ 共産圏であることから、取分け公安省からの情報取得は難しく、鑑識セミナーの開催についても、公安省からの具体的な要請は結局出てこなかった。セミナー開催期間も当初2週間を予定していたが、実際にはわずか2日間となってしまった。
- ・ 公安省は同国政府内でも最も保守的な体質があり、省内に外国人専門家を配置することは不可能である。
- ・ 公安省との打合せ時には、責任者が日本側と一人で面会することはなく、必ず複数名で相互に発言を確認しあいながら応答している。
- ・ A2-3Form の提出も大変遅く、GI の締切が守られることを想定しない方がよい。特に1月下旬はテト(ベトナムの正月)に当たることから、事務手続が停滞することが予想される。

平成13年10月18日 計画投資省海外経済協力局

(Foreign Economic Relations Department, Ministry of Planning and Investment: MPI)

面会者 Mr Nguyen Xuan Tien Senior Expert (日本担当官:無償/技術協力)

同席者 小林 広幸 JICA ベトナム事務所

議 事

調査団より今回の訪問主旨を説明。本邦研修及び ONCB プロジェクトへのベトナム関係者参加について歓迎する意向が同担当官より述べられた。また研修候補者の適切な人選を調査団から求めたのに対し、応募書類は JICA→MPI→公安省(後述)の流れを経るだろうが、当局が受領した時点で、適切な人選がなされるよう公安省に伝えたいとの回答を得た。

平成 13 年 10 月 18 日 公安省警察総局薬物対策局

(Department for Counter Drugs Crime, Ministry of Public Security)

面会者 Mr Nuing Dang Ngoc Deputy Director
 Kbien Do Ding International Relation Division
 Cuu Pbam Ding Division Chief, Investigation Division
 Khu Ncouyen Ding Division Chief, Criminal Control
 Hang Ngugn Kahe Inspector

同席者 小林 広幸 JICA ヴィエトナム事務所
 藤野 秀彦 二等書記官 在ヴィエトナム日本国大使館

議 事

冒頭副局長から、薬物対策局の概要及びヴィエトナムでの薬物取締状況について、概要次のとおり説明があった。

- ・薬物対策局(C17 と呼ばれる。)は、約 100 名の職員により構成され、3 つのセクション(①薬物中毒者対策課:Drug Addicts②薬物密売者対策課:Drug Trafficker③他の化学物質対策課:Chemical control)により構成される。
- ・薬物対策局の役割は次の 3 つに大別される。すなわち①政策/取締対策の立案②各県レベルの犯罪捜査に対する指導・情報提供③情報の入手及びモニタリングである。大規模な取引に対する捜査は、同局が直接指揮をとる。
- ・地方レベルでは、61 県中 42 県に薬物取締に関する特別チーム(Special Unit)が各県警に 1997 年から配置された。これらのチームは、同局のネットワークとして機能している。
- ・薬物防止・取締法(第 13 号:SODC(後述)より入手)の制定により、同法 13 条において、同局は捜査上必要な措置が取れることが明文化されている。また刑法において、多量の薬物(ヘロイン 300g、アヘン 10kg 以上)を所持する者に対しては、極刑が適用される。
- ・2001 年は、ヴィエトナムの薬物取締 5 カ年計画の最初の年に当たり、検挙率が前年比 34%向上した。
- ・ヴィエトナムで流通する主要薬物はヘロインである。近年では ATS の流通も増えつつあり、これら以外には、コカイン、アヘン、LSD、Seducen 等があげられる(調査団より UNDCP に提供する各種統計資料の提示を求めたが、具体的に数字は一切上げられなかった。後日提供するとの回答があったが、期待はできない。)
- ・薬物鑑定機関は、ハノイとホーチミンの 2 カ所に所在し、ホーチミンの研究所は支所に当たる。
- ・薬物関連の犯罪情報は、C17 内にデータ・ベース化されているが、各県警とのネットワークが構築されていない。情報処理に関する日本の協力が得られればありがたい。

この後、調査団側から今回訪問主旨を説明。地域別特設研修のターゲット・グループは薬物鑑定機関の研究者であり 5 ヶ年の計画で実施を予定していることから、ハノイ/ホーチミン双方の研究所から適切な人材を選出するよう申入れた。

平成 13 年 10 月 18 日 ヴィエトナム薬物鑑定機関

(Institute of Forensic Science:IFS)

面会者 Mr Nguyen Van Ho Pha Deputy Director
 Mr Hoang Manh Hung Head of Forensic Chemical Division
 Mr Ngo Van Khe
 Mr Phan Van Jang
 Mr Nguyen Xuan Phu

同席者 小林 広幸 JICA ヴィエトナム事務所

議 事

冒頭副所長から、研究所(IFS)の概要及びヴィエトナムでの薬物分析状況について、概要次のとおり説明があった。

- ・ IFS ハノイは公安省警察総局の附属機関であり、総勢 32 名の要員中 22 名が全薬物 (Narcotic Drugs を含む)分析にあたっており、内 4 名が医師資格を保有している。
- ・ ホーチミンには IFS 分室が所在し、6 名の薬物分析官が勤務している。公安省警察総局の附属研究所はこの 2 ヶ所のみである。
- ・ 61 ある県の中で、45 の県警内に簡易薬物鑑定機関(以下「簡易鑑定所」という。)がある。50 人程の医師/薬剤師がこれら機関に勤務しており、カラー・テスト等定性分析を実施している。その内ハノイ、ホーチミンを擁する県警内には他県よりも人員の多い簡易鑑定所があり、4~8 人の分析官が勤務している。
- ・ 簡易鑑定所では分析が不能な薬物については、ハノイまたはホーチミンの IFS にサンプルが送られ分析することになっている。IFS は、簡易鑑定所に加え税関、国境警察職員に対する研修も年 2 回程実施している。
- ・ これら研修用に、IFS では主要薬物毎にヴィエトナム語による教材を作成している(調査団が一部教材を入手)。
- ・ IFS ハノイには、1993 年に国費により購入したシマヅ製の GC 他一通りの分析機材が 1 台ずつ揃えられている。ラボ設備そのものは、約 30 年前に旧東ドイツからの協力により設置されたものであり、実験台等は著しく老朽化している(当時設置された分析機材は稼動不能だが研究所内に未だ放置されていた。)
- ・ GC/MS 等の上級分析機材は IFS にはないため、必要に応じ保健省傘下の研究所に分析を依頼する。IFS ハノイ分析官の内数名は、GC/MS の操作も可能である。

・IFS ハノイでは、年間 1,500 件～2,000 件の押収薬物のサンプル分析を実施しており、上級研究官は定性分析だけでなく、定量分析も実施している。尿検査等の生体検査は 5,000 件～7,000 件/年実施している(ホーチミンでの聞き取り調査時にこの数字は全国の検査件数であることが判明)。

技術レベル審査については、**別添 1**のとおり。

調査団からは、地域別研修の概要を説明の上、ベトナムの場合ターゲット・グループは IFS 所員であるため、適切な人選を申し入れると共に、研修は英語で実施されるため次年度意向に研修参加を希望するものについては英語のトレーニングも必要である旨申し添えた。

平成 13 年 10 月 19 日 ベトナム国家薬物対策委員会

(Standing office on Drug Control: SODC, National Committee for AIDS, Drug, Prostitution Control)

面会者 Mr Bui Xuan Hieu Head of the International Cooperation and Project management Division

 Mr Dang ngoc Hung Deputy Chief (同課)

 Mr Cao Hoang Long (同課)

同席者 子浦 陽一 JICA ベトナム事務所

 藤野 秀彦 二等書記官 在ベトナム日本国大使館

議 事

Hieu 氏から、同委員会の組織概要について説明があった。岩崎企画調査員報告書(平成 12 年 11 月)の記載と異なる説明があったため当初混乱したが、**別添 6**に基づいた説明を受け、調査団は概要を理解した。

- ・ National Committee for AIDS, Drug, Prostitution Control(NCADPC)は、2000 年 6 月に設立された副首相を長とする委員会で 18 省庁のメンバーにより構成され、AIDS、薬物及び売春対策に関する政策を立案する。SODC が薬物対策に関する政策立案を担当し、職員は全て公安省員により構成される。
- ・ SODC は直接プロジェクトの実施は担当しないが、UNDCP 等からの資金協力を得て実施するプロジェクトのフィージビリティを審査し、実現可能性の高いプロジェクトについては、政府に対し実施計画を提出する。
- ・ すでに実現可能性が高いと SODC が審査した 15 プロジェクト(**別添 7**)は、公安省所管以外の分野も含まれる。例として薬物中毒者のリハビリテーションは、雇用労働省の所管プロジェクトとなり、全国に 54 のリハビリテーション・センターが存在する。
- ・ 2001 年は、薬物対策強化 10 カ年計画の最初の年に当たり、SODC は、10 カ年計画の立案及びプロジェクトの採択を実施していく必要がある。

この後、調査団側から今回訪問主旨を説明。地域別特設研修のターゲット・グループは薬物鑑定機関の研究者であり5カ年の計画で実施を予定していることから、公安省と連携しつつハノイ/ホーチミン双方の研究所から適切な人材を選出するよう申入れた。

またタイ ONCB を拠点とした薬物対策プロジェクトの実施を計画中であり、同プロジェクト事業の一貫としてインドシナ各国から人材を招き研修・セミナーを開催した場合の参加意向を確認したところ、ONCB とは人の行き来を含め近しい関係にあり、同事業に参加することは情報交換の観点からも有益であるとの回答を得た。

加えて、薬物対策強化10カ年計画立案に資するために、11月下旬に日本、中国及び韓国を訪問予定である旨紹介があり、警察庁訪問の実現性について照会があった。

平成13年10月19日 在ヴェトナム日本国大使館

面会者 井村 久行 一等書記官

藤野 秀彦 二等書記官

同席者 小林 広幸 JICA ヴィエトナム事務所

議 事

調査団より調査主旨及び調査結果概要を報告した。

井村書記官から、先に調査を実施したラオスとヴェトナムの薬物分析技術水準の比較に対する関心が示され、調査団より使用機材は同等であるが、定量分析を実施していること及び薬物分析に係る教材を独自に作成している等の点でヴェトナムの方が進んでいると感じると回答した。

加えて、タイ ONCB を拠点とした薬物対策プロジェクトの実施計画については、10月下旬にハノイで開催予定のミニ・ダブリン会議の席上で口答により発表したいとのコメントが上げられた。

平成13年10月22日 ヴィエトナム薬物鑑定機関

(Sub Institute of Forensic Science: SIFS)

面会者	Mr Pham Ngoc Hien	Director
	Mr Nean	Chief of Personal Department
	Mr Vo Dav	Chief of Judicial Inspection of Narcotic Drug
	Mr Nguyen Dang Tien	Senior Researcher of Narcotic Drug
	Mr Vu Quang Thuat	Senior Researcher
	Mr trinh Mauh Cuong	
	Mr Nguyen Hoang Ha	

Mr Nguyen Ngoc Vinh

同席者 難波 竜輝 領事 在ホーチミン日本国総領事館
議 事

冒頭ヒエン支所長から、同支所の概要及びホーチミンでの薬物分析状況について、概要次のとおり説明があった。

- ・ Institute of Forensic Science には研究所長の下に 3 人の副所長がおり、2 人がハノイに 1 人がホーチミンに配属されている。同支所(SIFS)には 6 人の薬物分析研究官がいるが人事異動でハノイの研究所に行くことはなく、ホーチミン採用者は退職までホーチミンで勤務することになる。
- ・ SIFS では、年間約 1,200 件(ハノイは 1,500 件~2,000 件)の押収薬物のサンプル分析を実施しており、尿検査等の生体検査は約 4,000 件/年実施している。検査件数で言うとハノイに見劣りするものではないが、研究官数が 1/3 以下なので人手不足である。
- ・ 分析する薬物はヘロインが中心(約 85%)で、これにオピウム、ATS、大麻が続く。
- ・ SIFS には、IFS ハノイと全く同じ機材が 1993 年に国費購入により納入されている。
- ・ UNDCP よりスタンダード・サンプルの提供を受けているが、サンプル数が不足している。
- ・ 薬物犯罪捜査面では、C17(公安省直轄)の捜査官が約 30 人、市レベルの捜査官が 130 人、ホーチミン市内 22 に分割される地区に配属される警察官が各地区に 5 人ずつ捜査にあたっている。C17 は密輸・大規模事件等の対応の他は情報収集に当たることが多い。

調査団からは、地域別研修の概要を説明の上、ヴェトナムの場合ターゲット・グループは IFS または SIFS 所員であるため、適切な人選を申し入れると共に、研修は英語で実施されるため次年度意向に研修参加を希望するものについては英語のトレーニングも必要である旨申し添えた。

平成 13 年 10 月 19 日 在ヴェトナム日本国大使館

面会者 難波 竜輝 領事 在ホーチミン日本国総領事館
伊藤 ゆうこ JICA 企画調査員

議 事

調査団より調査主旨及び調査結果概要を報告した。

難波領事から、当国はハノイに権力が一局集中しているため、ホーチミンの研究所員が地域別特設研修に候補者として指名されるには大きなハンディ・キャップがある旨補足説明をいただいた。また、ホーチミン→ハノイの人事異動については、共産党幹部以外にはあり得ないだろうのコメントを得た。

タイ 調査期間：平成 13 年 10 月 23 日

平成 13 年 10 月 24 日 薬物統制委員会事務局

(Office of the Narcotics Control Board: ONCB)

面会者	Mr Chartchai Suthiklom	Deputy Secretary-general of NCB
	Mr Nichet Puthaviriyakorn	Director of Scientific Detection Division
	Mr Kraivwdh Maneeratana	Law Enforcement Officer, Strategic Intelligence Division, Law Enforcement Bureau
	Mr Waneuai Disates	Narcotics Law Enforcement Bureau
	田中 謙	JICA 派遣専門家(薬物分析)
同席者	坂田 英樹	JICA タイ事務所
	岩崎 亨	JICA 企画調査員

議 事

冒頭調査団より **別添 8** をもとにラオス・ヴィエトナムでの調査及び地域別特設研修に関する概要を説明。これを受け、チャチャイ副長官より、地域別特設研修に対し以下のコメントがあげられた。

- ・ Essential Facts ではターゲット・グループが「研究者」と記載されているが、ONCB では研究所長クラスの人選を想定している。したがって、ターゲット・グループの記載は単なる研究者向けの技術研修と受取られない書振りに変更いただきたい。
- ・ 12 月に ONCB で開催予定のセミナー対象者は、法執行官(Law Enforcement Officer) 2 名及び薬物分析官 1 名を各国から招へいする予定である。したがって、本邦研修対象者とはターゲット・グループが異なるが、国によっては双方に参加する候補者が推薦されたとしても、受入れる理解が必要である。
- ・ 薬物対策プロジェクト実施後は、カウンターパートとして本邦研修に参加する者と本地域別特設研修参加者とは区別して選考する必要があると考える。タイからの研修候補者は、3 省庁にまたがるため、ONCB が事務局として選考を実施する。

これを受けて調査団より、ラオス・ヴィエトナムの薬物分析機関を調査した感触では、両国とも研究所長クラスが人選される可能性が高いこと、またターゲット・グループの設定については、帰国後再考すると回答した。

また、「薬物対策」プロジェクトについては、捜査情報管理を目的(Project Objectives)の一つに加えることが不可欠であるとのコメントがあった。

この後、田中専門家より、地域別特設研修に対するチャチャイ副長官コメントの背景として、以下の説明があった。

- ・ 機材の操作手法に関する研修がカリキュラムのメインになるのであれば、同様の研修はすでに ONCB でも実施可能である。チャチャイ副長官以下 ONCB が日本に期待を寄せているのは、ラボの管理体制、サンプルの管理手法、分析データの管理手法等マ

ネージメントに関する部分である。

- ・したがって、科学警察研究所から提示のあったカリキュラム(案)では、ONCB の当初意図とは合致しないと言わざるを得ない。技術的な研修であれば、参加各国の技術レベルによりバラつきが生じるだろうが、マネージメントに関する研修は、参加者全員が理解し得るものである。

平成 13 年 10 月 24 日 経済技術協力局

(Department of Technical and Economic Cooperation: DIC)

面会者	Mr Banchong Amornchewin	Chief of Japan Sub-Division
同席者	坂田 英樹	JICA タイ事務所
	岩崎 亨	JICA 企画調査員

議 事

冒頭調査団より [REDACTED] をもとにラオス・ヴィエトナムでの調査及び地域別特設研修に関する概要を説明。これを受けバンチョン氏より、インドシナ地域の薬物対策分野においてタイの果たす役割の重要性について確認する発言があるとともに、12 月に ONCB で開催される周辺国参加セミナーと、地域別特設研修の役割分担について、明確にする必要があるとの発言があった。

特別案件等調査「インドシナ地域薬物取締法
執行能力の高度化に係る国際協力」報告書

平成13年11月16日

科学警察研究所

大前 義仁

1. 団員構成

- (1) 鶴飼 彦行：JICA 東京国際研修センター 業務第一課 課長代理
- (2) 伊藤 英明：警察庁薬物対策課 係長
- (3) 大前 義仁：科学警察研究所化学第一研究室 研究員

2. 調査期間

平成13年10月13日(土)～10月25日(木)

3. 調査結果

(1) 薬物鑑定機関の概要

ラオスにおける薬物鑑定機関は、保健省の所管機関である Food and Drug Quality Control Center, FDQCC の1機関のみである。

一方、ベトナムにおいては公安省警察総局の付属機関として刑事科学研究所 (Institute of Forensic Science, IFS) があり、ハノイとホーチミンにラボを有する。

各薬物鑑定機関の概要の詳細については、前述の議事録に記載のとおりである。

(2) 薬物鑑定機関の現状と薬物対策支援

表1に各国の薬物鑑定機関における年間処理鑑定件数を示す。両国ともその数は、ここ数年増加傾向にある。ラオスとベトナムでは、押収される主要薬物が異なり、ラオスでは錠剤型覚せい剤(ヤバー)、ベトナムではヘロインが主流であるが、近年、錠剤型覚せい剤の鑑定件数が増加している。

薬物鑑定手法は表2に示すように、ベトナム及びラオスのいずれの鑑定機関においても、呈色試験、薄層クロマトグラフィー(TLC)により押収薬物の定性分析を実施している。また、各国のラボには、ガスクロマトグラフ(GC)が各1台のみではあるが整備されており、薬物分析に利用されている。しかし、それ以上の分析、即ちIR(赤外分光光度計)及びGC-MS(ガスクロマトグラフ-質量分析計)等による分析の実施は、鑑定機関に

より若干異なっている。これは、①整備機材、②薬物鑑定官の人数及び技術レベルの2要素が影響していると考えられる。

上記の要素のうち、①整備機材については、表3に示すように、ベトナムの鑑定機関では、IRが整備されており、ヘロインや覚せい剤の分析に用いられているが、ラオスのラボにはIRが整備されていない。さらに、ベトナム及びラオスのいずれの鑑定機関においても、GC-MSは整備されておらず、GCも各ラボに1台しか整備されていない状況では、国内の薬物鑑定官に対する研修を行ったり、日常業務としての薬物鑑定をより高度なものとするには十分な設備とはいえないのが現状である。また、分析には各種薬物の標準品が不可欠であるが、ベトナム及びラオス両国の各ラボでこの需要があり、これらを含めた総合的な鑑定資機材の供給を考える必要があると思われる。

②薬物鑑定官の人数及び技術レベルを表4にまとめた。不純物分析を行うことができるレベルの鑑定官は、ベトナム及びラオスのいずれの鑑定機関においてもみられず、レベル4~2もしくは1に分散している。前述のとおり、ベトナムのラボにGC-MSは整備されていないのであるが、UNDCPマレーシアラボ等で研修を受けたことにより、知識上技術レベル4に該当する鑑定官が4名いるとのことであったが、業務上ではレベル3又は2に該当するとの回答を得た。ラオスのラボにおいても知識上と業務上のレベルに違いがみられる。また、鑑定官の人数が4名であり、ベトナムのラボと比べるとかなり少なく、さらに年齢層がやや高齢であるような印象を受けた。ラオスのラボにおいては、鑑定官の人材育成も今後の課題であると思われる。

現有機器および今後供給される鑑定資機材を有効に活用し、薬物鑑定能力を向上させるためには、両国の鑑定官に対し、本調査団が紹介したような日本における研修や薬物分析の専門家派遣による指導等が必要である。さらに、研修で学んだ技術や知識を自国内において他の鑑定官に教授し、広めていくことが肝要であると思われる。

4. まとめ

今回の調査で、ベトナム及びラオスの両国における薬物問題の深刻さ、薬物鑑定能力向上のための技術支援の必要性等を実感した。両国の薬物鑑定機関における設備の充実度および鑑定官の技術レベルには差異があり、それぞれの現状に沿った支援について、限られた財源と人的資源の中から、さらに検討する必要がある。

以上

表1. 各薬物鑑定機関における年間処理鑑定件数

	ヴェトナム		ラオス
	公安省刑事科学研究所 (IFS) ハノイ	公安省刑事科学研究所 (IFS) ホーチミン	Food & Drug Quality Control Center
2000年	5,256	4,590	136
1999年	6,373	4,092	90
1998年	5,113	4,468	52
1997年	4,271	3,904	33
1996年	1,237	3,775	

表 2. 各薬物鑑定機関における鑑定手法

	ヴェトナム		ラオス
	公安省刑事科学研究所 (IFS) ハノイ	公安省刑事科学研究所 (IFS) ホーチミン	Food & Drug Quality Control Center
1) ATS			
呈色試験	A	A	A
融点測定	C	D	C
TLC	A	A	A
GC	A	A	A
GC-MS	C	C	C
IR	A	B	C
2) ヘロイン			
呈色試験	A	A	A
TLC	A	A	A
IR	A	A	C
GC-MS	C	C	C
3) 大麻 (葉)			
鏡検	B	A	C
呈色試験	A	A	A
TLC	A	A	A
GC-MS	C	C	C
4) コカイン			
呈色試験	A	A	-
TLC	A	A	-
GC-MS	C	C	-

- A: 通常実施している。
 B: 可能だが、殆ど実施しない。
 C: 不可能である。
 D: 技術的に可能だが、実施できない。

表3. 各薬物鑑定機関において保有する分析機器

薬物鑑定機関	日本	ヴェトナム		ラオス
	科学警察研究所	公安省刑事科学研究所 (IFS) ハノイ	公安省刑事科学研究所 (IFS) ホーチミン	Food & Drug Quality Control Center
1. 設備 GC	HP5890II 2台 HP6890 1台	GC-14B 1台	GC-14B 1台	GC-17A 1台
GC-MS	QP-5050A 1台 GCQ 1台 JMS-AMII 150 1台 JMS-600W 1台	0	0	0
HPLC	LC-10A 5台	0	0	LC-10AT 1台
その他	LC-MS 2台 GC-MS/MS 2台 FT-IR 1台 キャピラリー電気 泳動装置 2台 旋光計 1台等	*島津FT-IR 8101M 1台 島津UV-VIS 3101 PC1台 電子天秤 2台	島津FT-IR 8101M 1台 島津UV-VIS 3101 PC1台	ETS PLUS 1台 日立 UV-VIS U-3000 1台
2. 設備の充実度	5	3	3	2

* 故障中

設備の充実度 1: GCを保有しない。

2: GCを保有する。

3: GCに加え、GC-MSあるいはIRを保有する。

4: GCに加え、GC-MSあるいはIRを複数台保有する。

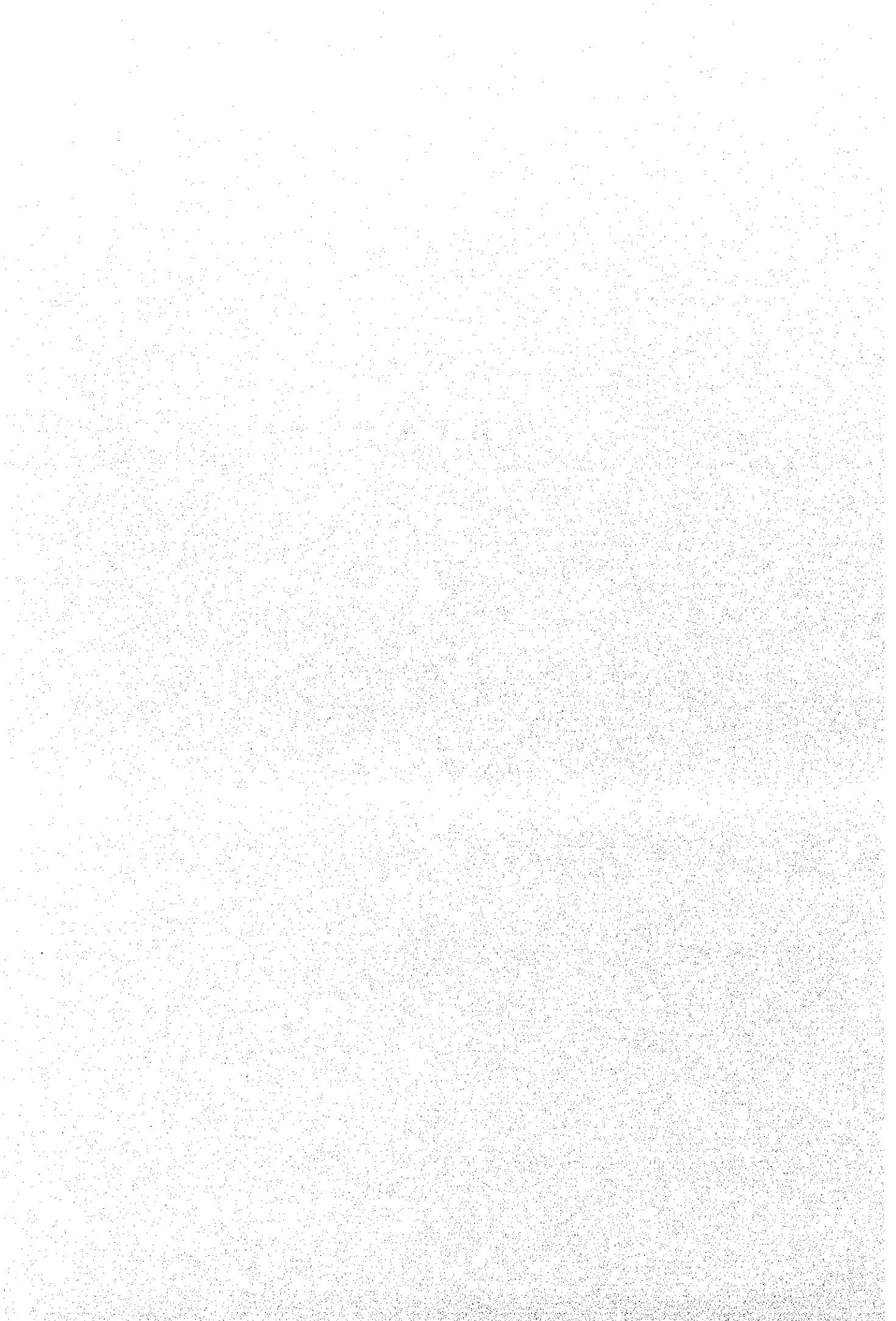
5: LC-MS、GC-MS/MS等を保有する。

表4. 各薬物鑑定機関における薬物鑑定官の人数と技術レベル

	ヴェトナム				ラオス	
	公安省刑事科学研究所 (IFS) ハノイ		公安省刑事科学研究所 (IFS) ホーチミン		Food & Drug Quality Control Center	
	知識上	業務上	知識上	業務上	知識上	業務上
技術レベル5	-	-	-	-	-	-
技術レベル4	4	-	1	-	-	-
技術レベル3	9	9	2	3	2	-
技術レベル2	9	13	3	3	2	2
技術レベル1	-	-	-	-	-	2
合計 (人)	22		6		4	

- 技術レベル5 : 不純物プロファイリングができる。
- 技術レベル4 : GC/MSおよびIRを使った分析ができる。
- 技術レベル3 : GCを使いこなせる。即ち
- 1) 検量線を使って定量分析ができる。
 - 2) 標品との違いについて推定ができる。
 - 3) 性能劣化に対応したメンテナンスができる。
- 技術レベル2 : GCによる定性分析ができる。
- 技術レベル1 : 呈色試験およびTLCによる定性分析ができる。

収集資料



**Amendment to Article 135 of the Criminal Code
on Production, Trafficking or Possession of Narcotic Drugs**

**Article 135 (New) : Production, Traffic, consumption or possession
of narcotics**

Any persons, who produce, traffic, distribute or have drugs in their possession, import, export, transport or carry such drugs as heroin, opium, stimulants, marijuana, or chemical substances for narcotic drug production, in transit through the Lao PDR, shall face the following penalties:

1. Any persons, who produce, traffic, distribute or have drugs in their possession, import, export transport or carry heroin in transit through Lao PDR in an amount of less than 100 grams will be jailed and deprived of freedom for 10 to 15 years with a fine from 50.000.000 to 100.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce, traffic, distribute or have heroin in their possession, import, export, or carry heroin, alone or in an organized group in transit through Lao PDR in an amount 100 to 300 grams will be jailed and deprived of 15 to 20 years with a fine of 100.000.000 to 500.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce, traffic, distribute or have heroin in their possession import, export, transport, or carry heroin in transit through Lao PDR in an amount of more than three hundred to five hundred grams will be jailed and deprived of freedom for the life and will be fined from 500.000.000 to 1.000.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce, traffic, distribute or have in their possession, import, export, transport or carry heroin in transit through Lao PDR more than five hundred grams will be sentenced to death penalty.

Any persons, who consume, buy, or have heroin in their possession for consumption in an amount of less than two grams will be punished from one to five years, deprived of freedom or will be punished in the form of behavioural without being deprived of freedom.

2. Any persons, who produce, process or have Amphetamine type stimulant in their possession, traffic, distribute, import, export, transport or carry Amphetamine type stimulant in transit through Lao PDR in an amount of less than one hundred grams for use in drug production will be imprisoned and deprived of freedom

from five to ten years with a fine 10.000.000 to 100.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce, process or have Amphetamine type stimulant in their possession, traffic, distribute, import, export, transport or carry Amphetamine type stimulant, illegally in transit through Lao PDR, alone or organized group or possession metamphetamines or other psychotropic substances from one hundred to five hundred grams will be punished and deprived of freedom for ten to twenty years with a fine of 100.000.000 to 500.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce, process, possession, traffic, import, export transport or transit metamphetamines or other psychotropic substances through Lao PDR in an amount of more than five hundred to three thousand grams will be jailed and deprived of freedom to life with a fine of 500.000.000 to 1.000.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce, process, possession, traffic, import, export transport or transit metamphetamines or other psychotropic substances through Lao PDR in an amount more than three thousand grams will be sentenced to death penalty.

Any persons, who are addicted, buy or have Amphetamine type stimulants illegally in possession for the purpose of fulfilling an addiction in an amount of no more than three grams will be jailed and deprived of freedom for six months to three years or will be punished in the form of behavioural correction without being deprived of freedom.

3. Any persons, who produce, process or possession, traffic, import, export transport or transit chemical precursors through Lao PDR, less than five hundred grams for narcotic production will be punished and deprived freedom of five to ten years with a fine of 5.000.000 to 20.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who habitually produce, process, possession, traffic, import, export transport or transit chemical precursors for narcotic production through Lao PDR alone or organized group or possession chemical precursors for narcotic production from five hundred to one thousand grams will be punished and deprived freedom of ten to twenty years with a fine of 20.000.000 to 50.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce, process, possession, traffic, import, export, transport or transit chemical precursors for narcotic production through Lao PDR in an amount of more than one thousand to ten thousand grams will be punished and deprived freedom to life, with fine of 50.000.000 to 100.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce, process, possession, traffic, import, export transport or transit chemical precursors for narcotic production through Lao PDR in an amount of ten thousand grams will be sentenced to death penalty

4. Any persons, who produce or possession opium, import, export transport or transit opium through Lao PDR for commercial purposes in an amount of less than one kilogram will be punished and deprived freedom from two to seven years with a fine of 1.000.000 to 10.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce or possession opium, import, export transport or transit opium through Lao PDR for commercial purposes, alone or organized group, or possession opium in an amount of one kilogram to three kilograms will be punished and deprived freedom of ten to fifteen years with a fine of 15.000.000 to 20.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce or possession opium, import, export transport or transit opium through Lao PDR for commercial purposes, alone or organized group or possession opium in an amount of more than three to five kilograms will be punished and deprived freedom of fifteen to twenty years with a fine of 30.000.000 to 40.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who produce or possession opium, import, export transport or transit opium through Lao PDR for commercial purposes, alone or organized group or possession opium in an amount of more than five kilograms will be punished and deprived freedom to life, with a fine of 50.000.000 to 100.000.000 kip and the properties may be confiscated.

Any persons, who provide services for opium smoking will be imprisoned for three to ten years with a fine of 5.000.000 to 20.000.000 kip.

5. Any persons, who cultivate marijuana in an amount of three to ten kilograms of raw marijuana for commercial purposes will be punished in the form of behavioral correction without being deprived freedom and with a fine of 500.000 to 2.000.000 kip.

Any persons, who cultivate marijuana in an amount of more than ten kilograms of raw marijuana for commercial purposes will be punished and deprived freedom of one to three years and with a fine of 5.000.000 to 20.000.000 kip.

Any persons, who produce or possession dry marijuana cannabis, import, export, transport or transit dry marijuana through Lao PDR for commercial purposes, in an amount of one to ten kilograms will be punished and deprived freedom of three to seven years and with a fine of 5.000.000 to 20.000.000 kip.

Any persons, who produce or possession dry marijuana, import, export, transport or transit dry marijuana through Lao PDR for commercial purposes, alone or

organized group or possession herbal cannabis more than ten kilograms will be punished and deprived freedom of five to ten years and with a fine of 20.000.000 to 50.000.000 kip.

Any persons, who provide services or smoke marijuana as an addiction will be punished in the form of behavioural correction without being deprived freedom and with a fine of 1. 000.000 to 5.000.000 kip.

Any persons, who smoke marijuana as an addiction will be punished in the form of behavioural correction without being deprived freedom and with a fine of 500.000 to 2.000.000 kip.

別添 3 在ラオス日本大使館報告(薬物関連部分抜粋)

15-16日付当地各紙は、12日ヴィエンチャンで開催されたラオス国家反麻薬キャンペーンの開始式典の様相を報じているところ右概要以下の通り(同記事別FAX公債)。

1. 反麻薬キャンペーン開始式典の概要

(1) 12日午前、ヴィエンチャン市内の国立文化会館において、「反麻薬は愛国であり、子供に未来を与え、国民全員の義務である」とのスローガンを掲げ、反麻薬キャンペーンの開始式典が開催された。

(2) 同式典にはラオス側よりブンニャン首相、スパン大統領府付大臣(国家麻薬統制委員長)、ヴィエンチャン市長、ブンポーン・ラオス青年同盟書記長その他、各省副大臣、大衆組織の代表、兵士、軍人、ヴィエンチャン市民が多数参加し、また来賓として当地UNDCP代表、外交団及び国際機関の代表等が出席した(当館より本使が出席)。

(3) 同日夜、反麻薬基金創出のためのチャリティー式典が開催され、国内企業や当地外交団等が寄付を行った。なお当地米大が行った6万2,000ドルの寄付は当日最大額である。

2. ラオス政府による麻薬問題取り組み状況(スパン大統領府付大臣のスピーチによる)

(1) ラオスは1961年の麻薬に関する単一条約及び1971年の向精神薬に関する条約の加盟国であり、現在政府は1998年(ママ、1988年と思われる)の麻薬及び向精神薬の不正取引の防止に関する国際連合条約の批准を検討中である。また、ラオスはその他ヴィエトナム、中国、カンボディア、タイ、国連等との二国間乃至多数国間協定の当事者である。

(2) 1990年政府は国家規模の麻薬統制のための委員会を設立し、99年11月に政府と国連は協力して2000-2006年ケシ栽培全廃計画を策定した。翌2000年3月、右計画実施のため政府は第1回全国麻薬会議を開催した。同11月、麻薬禁止に関する首相令(客年往F信F第841号御参照)が発出された。翌2001年3月の第7回党大会における政治報告では、2005年までのケシ栽培全廃が目標とされ、同月政府は教育施設における麻薬問題解決マスタープランを策定した。

(3) 2001年4月、第4期第7回国議会は、刑法第135条(麻薬の製造、売買、使用及び所有)を改正した。改正内容は、ヘロイン0.5キロ以上又はヤーバー(メタンフェタミン系覚醒剤)3キロ以上(又は3万錠以上)又は麻薬原料10キロ以上の所有者を死刑とし、アヘン5キロ以上の所有者を終身刑とするものである。

(4) 地方の現場における取り組みでは、政府職員を派遣して広報活動を行っている。各地方に麻薬統制委員会が設立された他、重点地域、国境地帯には麻薬警察部隊が設置された。

(5) 1988年以来政府は外国、国際機関の協力を受け、アヘン・麻薬解消プロジェクト計23案件(総額7,140万ドル)を実施し、ケシ栽培面積は26,800ヘクタール(1998年)から17,521ヘクタール(2001年)に削減され、アヘン常習者は62,895人(2000年)から58,173人(2001年)と減少傾向にある。法整備面では重点地域・国境地域9ヶ所において308万5千ドル相当のプロジェクトが実施された。過去3年間に300人以上の職員がトレーニングを受け、1,125件の麻薬事犯容疑者が検挙された(ヘロイン91.84キロ、アヘン845.95キロ、ヤーバー378万8617錠、乾燥大麻5,778キロを没収)。

3. 反麻薬キャンペーン開始式典におけるブンニャン首相のスピーチ概要

(1) ラオスで更生治療を受けている麻薬常習者は数千人にのぼり、その大半は青少年である。麻薬問題はラオス社会に対する挑戦であり、ラオスにとり見過ごす訳にはいかない問題である。

(2) ラオスは2005年までにケシ栽培の全廃を実現する。また、国民に対し、麻薬の不輸入、不密造、不売買、不使用のキャンペーンを行う。ラオスの社会秩序を守り、子供の未来を保証して、ASEANの2015年非麻薬地域化の実現に貢献する。

(3) 具体的対策として、2005年までのケシ栽培全廃のために、当該地域において地方開発計画と連携したケシ栽培全廃計画を立案し、当該地域の住人に対する職業訓練、生活向上のために国内外からの投資を奨励する。

(4) 法律上の対策としては、500グラム以上のヘロイン所有者を死刑とする刑法135条改正を行った。

(5) 今般ラオス政府は、国家麻薬統制委員会、情報文化省、教育省、その他関係省庁、各県に対し、国家反麻薬キャンペーンの実施を委任する。ラジオ、新聞、テレビ、垂れ幕を用いて麻薬の害を広告して国民全員のキャンペーン参加を図り、飲食店・ホテル、学校内、企業内等における麻薬対策を強化する。また、国家麻薬統制委員会は各地方警察と協力し、麻薬密造・売買等につき情報収集し厳格に法令を執行する。

(6) 麻薬更生センターの活動を活発化し、常習者の更生治療を行うための反麻薬基金を設立する。

(7) 関係省庁、各地方に対し、キャンペーン実行、関係機関との連携、反麻薬基金管理及び麻薬犯罪者対策の立案の4大義務を実施する反麻薬委員会を設置するよう呼びかける。

本電のみタイ、ヴィエトナム、カンボディア、ミャンマー、米国、寿府代、国連代に転電した。(了)

VIENTIANE TIMES

Established 1994

VOLUME 8

NUMBER 81

October 16 - 18, 2001

4000 KIP

United States Ambassador Douglas Hartwick presents a cheque for US\$ 62,000 to Prime Minister Bounnhang Vorachit for the National Anti-Drug Fund during a fund raising gala evening at the National Culture Hall on October 12.

-Photo Khamphanh



Anti-drug fund goes to schools and rehab clinics

PM: "Prevention is everyone's responsibility"

Mongkhon Vongsam-ang

PRIME Minister Bounnhang Vorachit recently urged his fellow citizens to contribute to the National Anti-Drug Campaign to help solve this huge social problem and achieve a country free from drugs by the year 2006.

The PM read the slogan at a recent anti-drug conference to announce the establishment of a

National Anti-Drug Fund held on October 12 at Vientiane's National Culture Hall. "Let's combat narcotics of all types, the fight against drugs offers our country a future and saves the lives of new generations. Drug prevention is everyone's job," said the Prime Minister.

The conference was held on the 56th Anniversary of the country's Declaration of Independence.

Drugs are the biggest problem currently facing the younger generation of Lao people and pose a threat to the future of the country, especially amphetamines and those substances with a high addiction rate.

To make the country free from drugs and to achieve target plans for a Drug-Free ASEAN by 2015, "we must concentrate on prevention and

Continued page 9

must concentrate on prevention and taking action against producers, buyers, sellers, traffickers and consumers of all kinds of narcotics," said the PM. At the same time, "we all undertake education measures as widely as possible and strictly implement the law, especially Amended Article 135 of the Criminal Code specifying the death penalty for the offenders who produce more than 500 grams of heroin," continued the Prime Minister.

The morning conference drew concerned NGOs and state organisations, development agencies and the UNDCP to discuss the drug problem in Laos.

The Prime Minister said that we have to mobilise the Lao people and encourage them not to import, to process, to purchase, to sell or to undertake any kind of drug abuse. "We have to ensure the security of our society and bring about tranquillity for all families and build a future for younger generations," he said.

He also said that target plans for opium elimination in areas where cultivation exists must be worked out by the provincial, district and village authorities. These target plans must integrate overall rural development projects with the family and village level.

In the evening of the same day, there was a donation ceremony for the foundation of the National Anti-Drug Fund. Many dozens of donors donated money to the foundation. Funds came from various sectors, NGOs, governments and businessmen. The biggest donation was the US embassy with US\$ 62 thousand. The big fund will help the victims of drug addiction, and assist in the construction of rehabilitation centres.

Mr Soubanh Srithirath, Minister to the President's Office who is also Chairman of the Lao National Commission for Drug Control and Supervision, said before the conference, "in the provinces, the fund will be provided for the

construction of schools, water supply systems, roads and facilities for people who live in remote areas. It will reduce their need to grow opium and make their living conditions better." In remote areas, the people still use drugs because of their living conditions, but "these new policies can completely change this reality," said the minister.

"So we need a huge amount of cooperation from you all," he requested.

According to the press release, the Lao Government will renovate four rehabilitation centres and among others the main centre in Vientiane municipality will consist of a dormitory, detoxification clinic and sports ground, a vocational training centre and demonstration plot and activities.

The programme will begin implementation in Vientiane municipality, especially in schools and among local families," said Thongmy Phommisay, Deputy Governor of Vientiane municipality, before the conference. After this, other provinces across the country will become involved.

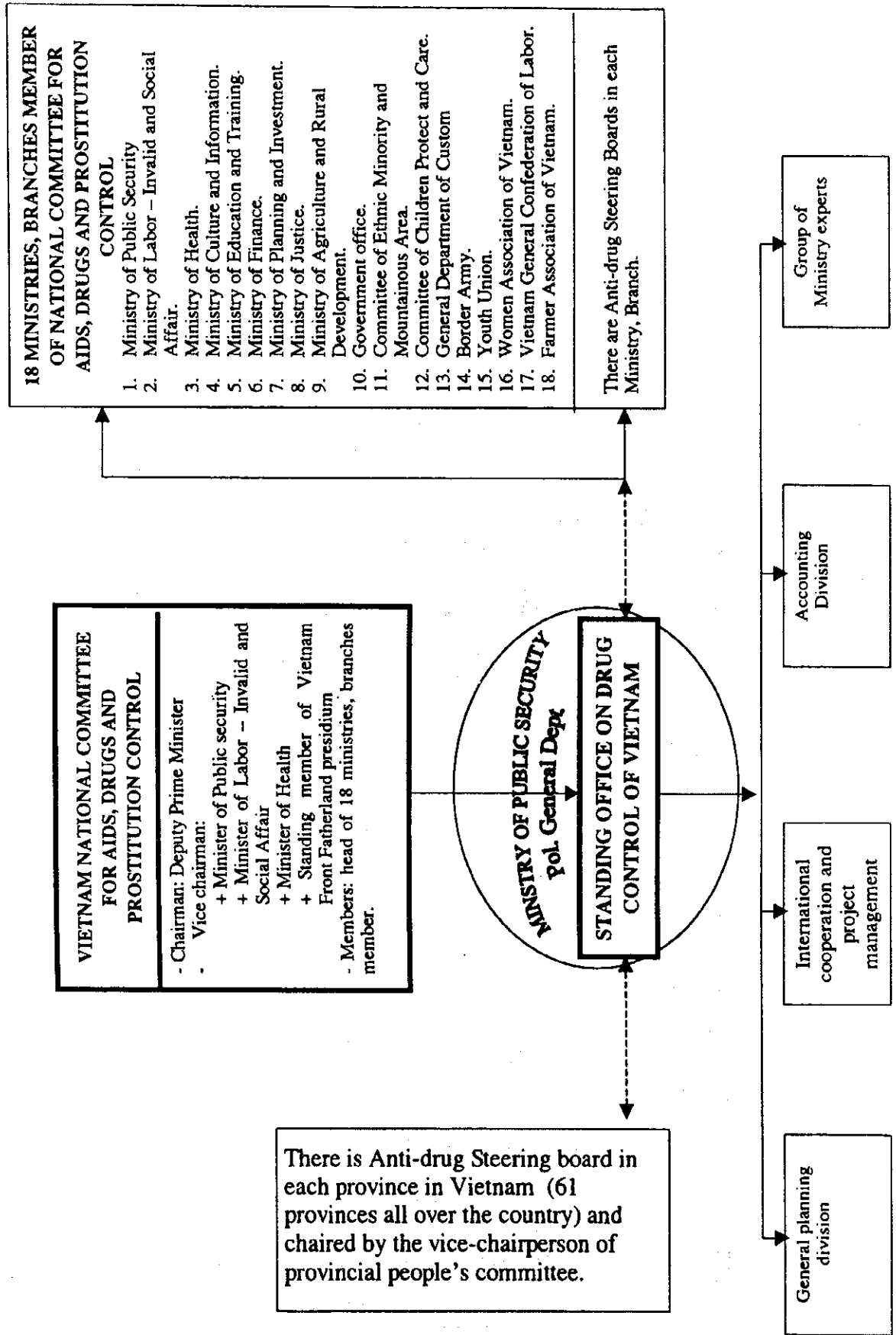
別添 5 ヴィエトナム薬物犯罪関連刑法(英訳資料の表紙のみ)

STANDING OFFICE ON DRUGS CONTROL OF VIETNAM

LAW
ON NARCOTIC DRUGS PREVENTION
AND SUPPRESSION

THE PEOPLE'S PUBLIC SECURITY PUBLISHING HOUSE
HANOI - 2001

ORGANIZATIONAL CHART
VIETNAM NATIONAL COMMITTEE FOR AIDS, DRUGS AND PROSTITUTION CONTROL



CONFIDENTIAL

**TENTATIVE LIST OF DRUG CONTROL PROJECTS
FOR UNDCP-VIETNAM COOPERATION IN 2001 - 2005
(as of 20 September 2000)**

No.	Project titles	Amount (US\$)*
1	National drug control master plan 2001 - 2010 formulation	250,000
2	Strengthening of the national drug control coordinating institution	400,000
3	AD project in Ky Son (Phase II)	4,600,000
4	AD project in Song Ma	2,700,000
5	Capacity building in drug information sharing	900,000
6	Law enforcement project (covering drug crime investigation and interdiction capacity building, inter-sectoral, inter-agency cooperation, law enforcement official training, drug testing, precursor control)	900,000
7	Drug legislation	300,000
8	Drug abuse prevention education in school (B52 Phase II)	350,000
9	Drug prevention (among the general population and the youth, in sports and games, promoting IEC activities, using mass media)	1,000,000
10	Drug prevention in workplaces	300,000
11	Drug treatment / rehabilitation (continuation of B93)	700,000
12	Prevention of drug abuse among the street children	500,000
13	Demand reduction among the ethnic minority groups (B85)	350,000
14	Prevention of HIV among IDUs	750,000
15	Control of traffic of human beings	450,000
TOTAL		14,450,000

** The amounts indicated do not signify any commitment on behalf of UNDCP, but are subject to change and availability of funds.*

別添 8 調査団がタイ ONCB に報告したラオス及びヴェトナムの調査概要

FACTS AND RESULT OF THE MEETINGS IN LAO AND VIET NAM

**JICA Study Mission for the Country Focused Training Course in Regional Cooperation
on Enhancement of the Capability of Drug Law Enforcement**

Lao PDR Oct 15 – 16, 2001

Ministry of Interior, Drug Control Department: DCD

Appointment Mr Thongpanh Chansoulimad Director
 Mr Vantha Thammasith Deputy Director
 Mr Bounsu Khampanisong Deputy Head of International Relations

Lao National Commission for Drug Control and Supervision: LCDC

Appointment Mr Linthong Phetsavan Director
 Mr Viroun Deputy Director

Food and Drug Quality Control Center : FDQCC

Appointment Mr Syviengxai Chittavong Deputy Director
 Ms Vongsavanh Insixiengmay Head of Administration Division
 Mr Ot Manolin Head of Narcotic Division
 Ms Vongmanee Head of Division (Forensic Lab.)
 Mr Keophilavanh Deputy Chief of Microbiology Division

Department of International Cooperation, Committee for Planning and Cooperation

Appointment Mr Bountheuang Mounlasy Director General

Viet Nam Oct 17 – 22, 2001

Foreign Economic Relations Department, Ministry of Planning and Investment

Appointment Mr Nguyen Xuan Tien Senior Expert

Department for Counter Drugs Crime, Ministry of Public Security

Appointment Mr Nuing Dang Ngoc Deputy Director
 Kbien Do Ding International Relation Division
 Cuu Pbam Ding Division Chief, Investigation Division
 Khu Ncouyen Ding Division Chief, Criminal Control
 Hang Ngugn Kahe Inspector

Institute of Forensic Science, Ministry of Public Security

Appointment	Mr Nguyen Van Ho Pha	Deputy Director
	Mr Hoang Manh Hung	Head of Forensic Chemical Division
	Mr Ngo Van Khe	
	Mr Phan Van Jang	
	Mr Nguyen Xuan Phu	

Standing office on Drug Control: SODC, National Committee for AIDS, Drug, Prostitution Control

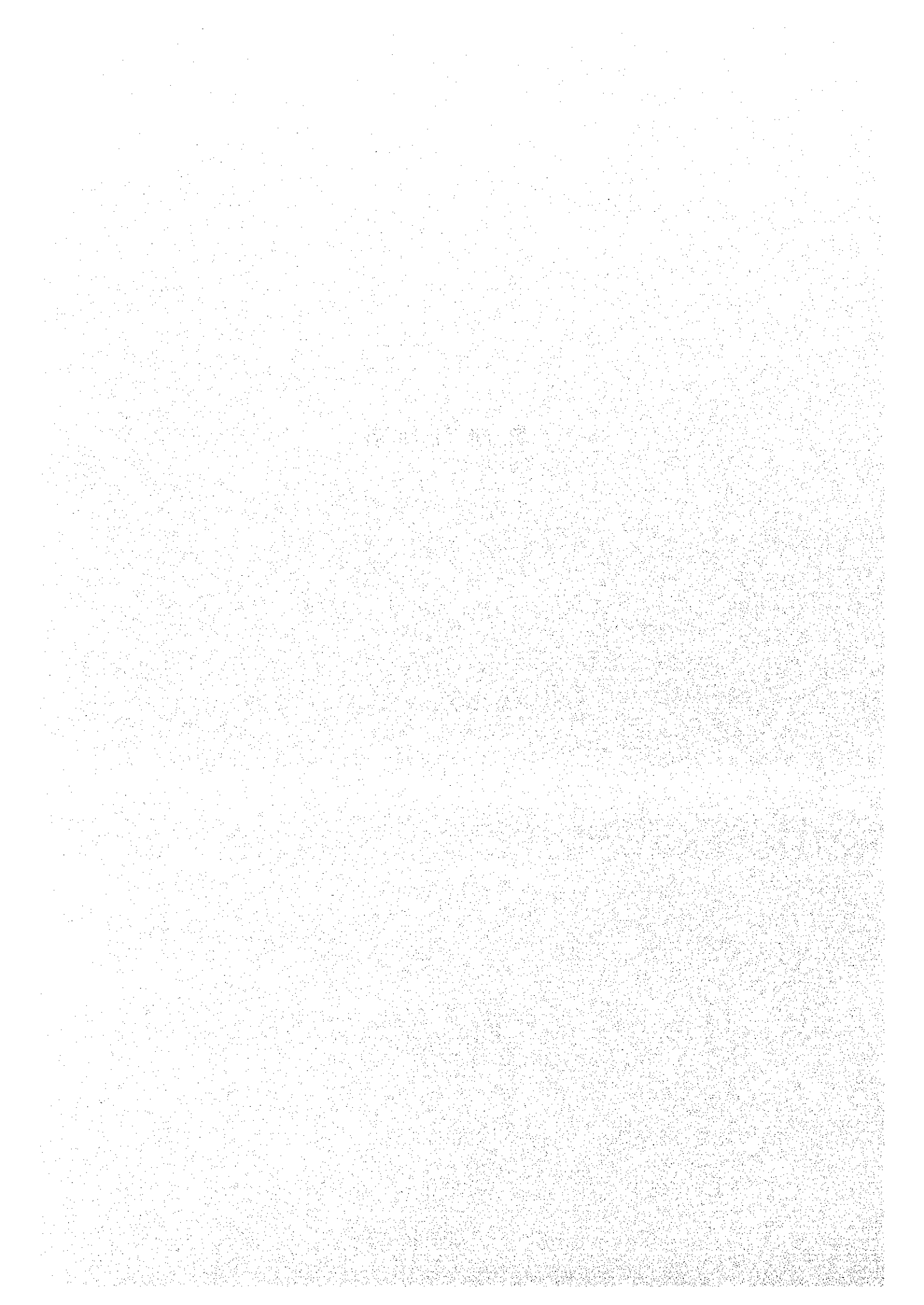
Appointment	Mr Bui Xuan Hieu	Head of the International Cooperation and Project management Division
	Mr Dang ngoc Hung	Deputy Chief
	Mr Cao Hoang Long	

Sub Institute of Forensic Science: Ho Chi Minh City, Ministry of Public Security

Appointment	Mr Pham Ngoc Hien	Director
	Mr Nean	Chief of Personal Department
	Mr Vo Dav	Chief of Judicial Inspection of Narcotic Drug
	Mr Nguyen Dang Tien	Senior Researcher of Narcotic Drug
	Mr Vu Quang Thuat	Senior Researcher
	Mr trinh Mauh Cuong	
	Mr Nguyen Hoang Ha	
	Mr Nguyen Ngoc Vinh	

- 1 The Study Mission introduced the concept of the new training course to the authorities of both countries.
- 2 The Study Mission interviewed the Drug Control activities of both countries.
- 3 The Study Mission observed forensic institutes of both countries.
- 4 The Study Mission and chief officials of the forensic institutes evaluated the technical level of researchers as appendix 1.
- 5 The Study Mission verbally introduced the idea of "Drug Control" project initiated by ONCB. The authorities of both countries understood the idea and expressed positive attitude to participate in the project's activities.

質 問 票 回 答



1 ラオス薬物鑑定機関

Date : 19. 10. 2001

Informant : _____

Laboratory : Forensic laboratory

Please choose your situation on your drug analysis from A, B, C or D.

Lab P.D.R.

(1) Amphetamine Type Stimulants

(A: being often implemented, B: possible but seldom implemented, C: impossible, D: technically possible but not necessary)

Analytical Methods and Reagents	non-ring substituted ATS			ring substituted ATS		
	1	color test	(A) B / C / D	1	color test	(A) B / C / D
		Marquis reagent	(A) B / C / D		Marquis reagent	(A) B / C / D
		Simon's reagent	(A) B / C / D		Simon's reagent	(A) B / C / D
		Other reagents			Sulfuric acid	(A) B / C / D
		Other reagents			Other reagents	
	2	chloride or sulfate	(A) B / C / D	2	chloride or sulfate	(A) B / C / D
		silver nitrate solution (2)	(A) B / C / D		silver nitrate solution	(A) B / C / D
		barium chloride solution (50%)	(A) B / C / D		barium chloride solution	(A) B / C / D
		Other reagents			Other reagents	
	3	melting-point	(A) B / C / D	3	melting-point	(A) B / C / D
	4	TLC(Thin Layer Chromatography)	(A) B / C / D	4	TLC(Thin Layer Chromatography)	(A) B / C / D
		acetone-toluene(benzene)-28% aq. ammonia (20:10:1)	(A) B / C / D		acetone-toluene(benzene)-28% aq. ammonia (20:10:1)	(A) B / C / D
		Other solvent system Ethyl acetate : Methanol : ammonia 85 : 10 : 5			Other solvent system ethyl acetate : methanol : ammonia 85 : 10 : 5	
		Simon's reagent	(A) B / C / D		Simon's reagent	(A) B / C / D
		Fluorescamine reagent	(A) B / C / D		Fluorescamine reagent	(A) B / C / D
		Dragendorff reagent	(A) B / C / D		Dragendorff reagent	(A) B / C / D
		Other reagents Ninhydrin reagent			Other reagents Ninhydrin reagent	
	5	GC (Gas Chromatography)	(A) B / C / D	5	GC (Gas Chromatography)	(A) B / C / D
		Trifluoroacetic anhydride	(A) B / C / D		Trifluoroacetic anhydride	(A) B / C / D
		Other reagents			Other reagents	

6	GC/MS (Gas Chromatography/Mass Spectrometry)	(A/B/C/D)	6	GC/MS (Gas Chromatography/Mass Spectrometry)	(A/B/C/D)
	Trifluoroacetic anhydride	(A/B/C/D)		Trifluoroacetic anhydride	(A/B/C/D)
	Other reagents			Other reagents	
7	IR (InfraRed)	(A/B/C/D)	7	IR (InfraRed)	(A/B/C/D)
	KBr	(A/B/C/D)		KBr	(A/B/C/D)
	Other reagents			Other reagents	
			8	HPLC (High Performance Liquid Chromatography)	(A/B/C/D)
				ammonium acetate	(A/B/C/D)
				acetonitrile	(A/B/C/D)
				Other reagents	
8	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)	9	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)

Any other analytical methods, and reagents ?

(2) opium and opiates

(A: being often implemented, B: possible but seldom implemented, C: impossible, D: technically possible but not necessary)

	opium		morphine		heroin				
Analytical Methods and Reagents	1	color test	(A/B/C/D)	1	color test	(A/B/C/D)	1	color test	(A/B/C/D)
		Marquis reagent	(A/B/C/D)		Marquis reagent	(A/B/C/D)		Marquis reagent	(A/B/C/D)
		Mecke's reagent	(A/B/C/D)		Mecke's reagent	(A/B/C/D)		Mecke's reagent	(A/B/C/D)
		Frohde's reagent	(A/B/C/D)		Frohde's reagent	(A/B/C/D)		Frohde's reagent	(A/B/C/D)
		Other reagents			Other reagents			Other reagents	
	2	TLC	(A/B/C/D)	2	TLC	(A/B/C/D)	2	TLC	(A/B/C/D)
		methanol-28% aq. Ammonia (100:1.5)	(A/B/C/D)		methanol-28% aq. Ammonia (100:1.5)	(A/B/C/D)		methanol-28% aq. Ammonia (100:1.5)	(A/B/C/D)
		toluene(benzene)-dioxane-ethanol-28% aq. ammonia (50:40:5:5)	(A/B/C/D)		toluene(benzene)-dioxane-ethanol-28% aq. ammonia (50:40:5:5)	(A/B/C/D)		toluene(benzene)-dioxane-ethanol-28% aq. ammonia (50:40:5:5)	(A/B/C/D)
		Other solvent system			Other solvent system			Other solvent system	
		Dragendorff reagent	(A/B/C/D)		Dragendorff reagent	(A/B/C/D)		Dragendorff reagent	(A/B/C/D)
		potassium iodoplatinate reagent	(A/B/C/D)		potassium iodoplatinate reagent	(A/B/C/D)		potassium iodoplatinate reagent	(A/B/C/D)
		ferric chloride solution	(A/B/C/D)						
		Other reagents			Other reagents			Other reagents	
	3	HPLC	(A/B/C/D)	3	IR	(A/B/C/D)	3	IR	(A/B/C/D)
					KBr	(A/B/C/D)		KBr	(A/B/C/D)
				Other reagents			Other reagents		

4	GC/MS	(A/B/C/D)	4	GC/MS	(A/B/C/D)	4	GC/MS	(A/B/C/D)
	N-O-bis-(trimethylsilyl)-acetoamide (BSA)	(A/B/C/D)		N-O-bis-(trimethylsilyl)-acetoamide (BSA)	(A/B/C/D)			
	Other reagents			Other reagents			Other reagents	
5	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)	5	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)	5	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)

Any other analytical methods, and reagents ?

(3) Cannabis

(A; being often implemented, B; possible but seldom implemented, C; impossible, D; technically possible but not necessary)

Analytical Methods and Reagents	Leaves		Resin			
	1	Microscopic observation	(A/B/C/D)	1	color test	(A/B/C/D)
		sodium hydroxide	(A/B/C/D)		Beam reagent	(A/B/C/D)
					Duquenois reagent	(A/B/C/D)
		Other reagents			Ghamrawy reagent	(A/B/C/D)
					Other reagents	
	2	color test	(A/B/C/D)	2	TLC	(A/B/C/D)
		Beam reagent	(A/B/C/D)		toluene(benzene)-hexane -diethylamine(25:10:1)	(A/B/C/D)
					Other solvent system	
		Duquenois reagent	(A/B/C/D)		Fast Blue B salt reagent	(A/B/C/D)
		Ghamrawy reagent	(A/B/C/D)			
		Other reagents				
					Other reagents	
	3	TLC	(A/B/C/D)	3	GC/MS	(A/B/C/D)
		toluene(benzene)-hexane -diethylamine(25:10:1)	(A/B/C/D)	4	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)
		Other solvent system				
	Fast Blue B salt reagent	(A/B/C/D)				
	Other reagents					
4	GC/MS	(A/B/C/D)				
5	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)				

Any other analytical methods, and reagents ?

(4) Cocaine

(A: being often implemented, B: possible but seldom implemented, C: impossible, D: technically possible but not necessary)

Analytical Methods and Reagents	1	color test	(A / B / C / D)
		Cobalt thiocyanate reagent	(A / B / C / D)
		Other reagents	
	2	TLC	(A / B / C / D)
		Cobalt thiocyanate reagent	(A / B / C / D)
		methanol-ammonia solution(100:1.5)	(A / B / C / D)
		toluene(benzene)-dioxane-ethanol-ammonia sol.(50:40:5:5)	(A / B / C / D)
		chloroform-methanol-ammonia solution(100:20:1)	(A / B / C / D)
		Other solvent system	
		Dragendorff reagent	(A / B / C / D)
		potassium iodoplatinate reagent	(A / B / C / D)
		Other reagents	
	3	GC/MS	(A / B / C / D)
	4	Microcrystalline Test	(A / B / C / D)

Any other analytical methods, and reagents ?

Another questions

1. Do you have manuals for drug analysis? If yes, please make a copy for us. NO
2. Do you utilize UNDCP Bluebook for drug analysis? yes.
3. Are there any drug test kits commercially available? If yes, what kind of drugs? NO
4. Do you examine ephedrine as a routine analysis? we are examine ephedrine as a routine analysis in XABA tablet only. (
5. Could you handle biological materials for drug tests?
6. What is your problem in performing drug analysis?

Equipment

Standards for drug qualification and quantification, not enough

7. Do you have regular training courses for drug analysis? just on job training.

How many times

Could you show me the details of training?

Do you have manuals for drug analysis training? NO

8. If not, how do you train your chemical staff?

9. How many cases does FDQCC do the urinate test per year?

and Please teach us the way to check.

Table 1. Number of criminal cases

	methamphetamine	amphetamine	other ATS	opium	morphine	heroin	cannabis		cocaine
							leaves	resin	
2000									
1999									
1998									
1997									
1996									

Table 2. Number of drug analyses (submission of expert reports)

	methamphetamine	amphetamine	other ATS	opium	morphine	heroin	cannabis		cocaine
							leaves	resin	
2000	71			8	8	45	4		0
1999	56			7	7	19	1		0
1998	25			6	6	12	3		0
1997	22			3	3	0			0
1996									0

2 ヴィエトナム薬物鑑定機関/ハノイ

Date: 10.29.2001 Informant: For all the staff of laboratory Laboratory: Forensic Chemistry

Please choose your situation on your drug analysis from A, B, C or D. Judicial inspection Laboratory of Narcotic Drugs
Sub-institute of Forensic Science - Hanoi Mining City
 (1) Amphetamine Type Stimulants
 (A: being often implemented, B: possible but seldom implemented, C: impossible, D: technically possible but not necessary) VIET NAM

Analytical Methods and Reagents	non-ring substituted ATS		ring substituted ATS		
	1	color test	(A/B/C/D)	1	color test
	Marquis reagent	(A/B/C/D)		Marquis reagent	(A/B/C/D)
	Simon's reagent	(A/B/C/D)		Simon's reagent	(A/B/C/D)
	Other reagents			Sulfuric acid	(A/B/C/D)
				Other reagents	
2	chloride or sulfate	(A/B/C/D)	2	chloride or sulfate	(A/B/C/D)
	silver nitrate solution	(A/B/C/D)		silver nitrate solution	(A/B/C/D)
	barium chloride solution	(A/B/C/D)		barium chloride solution	(A/B/C/D)
	Other reagents			Other reagents	
3	melting-point	(A/B/C/D)	3	melting-point	(A/B/C/D)
4	TLC(Thin Layer Chromatography)	(A/B/C/D)	4	TLC(Thin Layer Chromatography)	(A/B/C/D)
	acetone-toluene(benzene)-28% aq. ammonia (20:10:1)	(A/B/C/D)		acetone-toluene(benzene)-28% aq. ammonia (20:10:1)	(A/B/C/D)
	Other solvent system			Other solvent system	
	<i>Ethyl acetate: Methanol: Ammonia-conc (85:10:5)</i>			<i>Same beside column.</i>	
	Simon's reagent	(A/B/C/D)		Simon's reagent	(A/B/C/D)
	Fluorescamine reagent	(A/B/C/D)		Fluorescamine reagent	(A/B/C/D)
	Dragendorff reagent	(A/B/C/D)		Dragendorff reagent	(A/B/C/D)
	Other reagents			Other reagents	
	<i>Ninhydrine 1% ethanol or Acetone.</i>				
5	GC (Gas Chromatography)	(A/B/C/D)	5	GC (Gas Chromatography)	(A/B/C/D)
	Trifluoroacetic anhydride	(A/B/C/D)		Trifluoroacetic anhydride	(A/B/C/D)
	Other reagents			Other reagents	

6	GC/MS Chromatography/Mass Spectrometry) (Gas	(A/B/C/D)	6	GC/MS Chromatography/Mass Spectrometry) (Gas	(A/B/C/D)
	Trifluoroacetic anhydride	(A/B/C/D)		Trifluoroacetic anhydride	(A/B/C/D)
	Other reagents			Other reagents	
7	IR (InfraRed)	(A/B/C/D)	7	IR (InfraRed)	(A/B/C/D)
	KBr	(A/B/C/D)		KBr	(A/B/C/D)
	Other reagents			Other reagents	
			8	HPLC (High Performance Liquid Chromatography)	(A/B/C/D)
				ammonium acetate	(A/B/C/D)
				acetonitrile	(A/B/C/D)
				Other reagents	
8	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)	9	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)

Any other analytical methods, and reagents?

Ninhydrine 1% in Acetone or ethanol.

(2) opium and opiates

(A; being often implemented, B; possible but seldom implemented, C; impossible, D; technically possible but not necessary)

	opium			morphine			heroin		
Analytical Methods and Reagents	1	color test	(A) B / C / D	1	color test	(A) B / C / D	1	color test	(A) B / C / D
		Marquis reagent	(A) B / C / D		Marquis reagent	(A) B / C / D		Marquis reagent	(A) B / C / D
		Mecke's reagent	(A) (B) C / D		Mecke's reagent	(A) (B) C / D		Mecke's reagent	(A) (B) C / D
		Froehde's reagent	(A) B / C / D		Froehde's reagent	(A) B / C / D		Froehde's reagent	(A) B / C / D
		Other reagents <i>Dragendorff, FeSO₄</i>			Other reagents <i>Dragendorff, HNO₃ - conc</i>			Other reagents <i>Dragendorff, HNO₃ - conc</i>	
	2	TLC	(A) B / C / D	2	TLC	(A) B / C / D	2	TLC	(A) B / C / D
		methanol-28% aq. Ammonia (100:1.5)	(A) B / (C) D		methanol-28% aq. Ammonia (100:1.5)	(A) B / C / D		methanol-28% aq. Ammonia (100:1.5)	(A) B / C / D
		toluene(benzene)- dioxane-ethanol-28% aq. ammonia (50:40:5:5)	(A) (B) C / D		toluene(benzene)- dioxane-ethanol-28% aq. ammonia (50:40:5:5)	(A) (B) C / D		toluene(benzene)- dioxane-ethanol-28% aq. ammonia (50:40:5:5)	(A) (B) C / D
		Other solvent system <i>chloroform : Acetone : Methanol : Ammonia - conc (20 : 20 : 3 : 1)</i>			Other solvent system			Other solvent system	
		Dragendorff reagent	(A) B / C / D		Dragendorff reagent	(A) B / C / D		Dragendorff reagent	(A) B / C / D
		potassium iodoplatinate reagent	(A) B / C / (D)		potassium iodoplatinate reagent	(A) B / C / (D)		potassium iodoplatinate reagent	(A) B / C / (D)
		ferric chloride solution	(A) (B) C / D						
		Other reagents			Other reagents			Other reagents	
	3	HPLC	(A) B / (C) D	3	IR	(A) B / C / D	3	IR	(A) B / C / D
					KBr	(A) B / C / D		KBr	(A) B / C / D
				Other reagents			Other reagents		

4	GC/MS	(A/B/C/D)	4	GC/MS	(A/B/C/D)	4	GC/MS	(A/B/C/D)
	N-O-bis-(trimethylsilyl)-acetoamide (BSA)	(A/B/C/D)		N-O-bis-(trimethylsilyl)-acetoamide (BSA)	(A/B/C/D)			
	Other reagents			Other reagents			Other reagents	
5	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)	5	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)	5	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)

Any other analytical methods, and reagents? *GC method is being often implemented.*

(3) Cannabis

(A; being often implemented, B; possible but seldom implemented, C; impossible, D; technically possible but not necessary)

Analytical Methods and Reagents	Leaves		Resin			
	1	Microscopic observation	(A/B/C/D)	1	color test	(A/B/C/D)
		sodium hydroxide	(A/B/C/D)		Beam reagent	(A/B/C/D)
					Duquenois reagent	(A/B/C/D)
		Other reagents			Ghamrawy reagent	(A/B/C/D)
					Other reagents	
	2	color test	(A/B/C/D)	2	TLC	(A/B/C/D)
		Beam reagent	(A/B/C/D)		toluene(benzene)-hexane -diethylamine(25:10:1)	(A/B/C/D)
					Other solvent system <i>Some Cannabis leaves.</i>	
		Duquenois reagent	(A/B/C/D)		Fast Blue B salt reagent	(A/B/C/D)
		Ghamrawy reagent	(A/B/C/D)		Other reagents	
		Other reagents <i>Fast blue B Salt</i>				
	3	TLC	(A/B/C/D)	3	GC/MS	(A/B/C/D)
		toluene(benzene)-hexane -diethylamine(25:10:1)	(A/B/C/D)	4	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)
		Other solvent system <i>Ethyl acetate : Methanol : Conc Ammonia : water (12:5:1:0,5)</i>				
		Fast Blue B salt reagent	(A/B/C/D)			
		Other reagents				
	4	GC/MS	(A/B/C/D)			
	5	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)			

Any other analytical methods, and reagents ?

(4) Cocaine

(A; being often implemented, B; possible but seldom implemented, C; impossible, D; technically possible but not necessary)

Analytical Methods and Reagents	1	color test	(A) / B / C / D
		Cobalt thiocyanate reagent	(A) / B / C / D
		Other reagents <i>Dragendorff</i>	
	2	TLC	(A) / B / C / D
		Cobalt thiocyanate reagent	(A) / (B) / C / D
		methanol-ammonia solution(100:1.5)	(A) / B / C / D
		toluene(benzene)-dioxane-ethanol-ammonia sol.(50:40:5:5)	(A) / (B) / C / D
		chloroform-methanol-ammonia solution(100:20:1)	(A) / B / C / D
		Other solvent system	
		Dragendorff reagent	(A) / B / C / D
		potassium iodoplatinate reagent	(A) / (B) / C / D
		Other reagents	
	3	GC/MS	(A) / B / (C) / D
	4	Microcrystalline Test	(A) / B / C / (D)

Any other analytical methods, and reagents? GC method is being often implemented.

Another questions

1. Do you have manuals for drug analysis? If yes, please make a copy for us. NO.
2. Do you utilize UNDCP Bluebook for drug analysis? yes.
3. Are there any drug test kits commercially available? If yes, what kind of drugs? There are opiates, ATS, Cannabis, cocaine kits
4. Do you examine ephedrine as a routine analysis? Sometime
5. Could you handle biological materials for drug tests? a little
6. What is your problem in performing drug analysis?
Equipment lack of GC-MS, HPLC.
Standards for drug qualification and quantification not enough for quantification.
7. Do you have regular training courses for drug analysis?
How many times 5 times for province staffs.
Could you show me the details of training? color test, TLC method
Do you have manuals for drug analysis training? yes, we have.
8. If not, how do you train your chemical staff? Follow to UNDCP Bluebook for Narcotic drugs analysis.

Table 1. Number of criminal cases

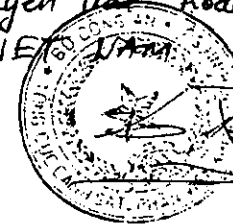
	methamphetamine	amphetamine	other ATS	opium	morphine	heroin	cannabis		cocaine
							leaves	resin	
2000	20	5	25	100	15	968	24	10	6
1999	15	7	20	120	25	856	36	5	8
1998	13	10	18	152	20	906	30	3	2
1997	7	5	15	176	16	715	41	2	4
1996	12	6	10	202	10	685	53	6	8

Table 2. Number of drug analyses (submission of expert reports)

	methamphetamine	amphetamine	other ATS	opium	morphine	heroin	cannabis		cocaine
							leaves	resin	
2000	60	16	80	420	50	3820	100	26	18
1999	50	24	72	378	80	3340	112	10	26
1998	32	16	56	534	72	3640	108	6	4
1997	24	12	38	656	44	2986	127	7	10
1996	33	14	28	759	32	2715	166	20	8

Contact: Mr. Nguyen Dong Tien

Director of Sub-Institute of Forensic Science
 Ministry of Interior - Viet Nam
 258 - Nguyen Trai Road, dist-1 HOCHIMINH
 city - VIETNAM



Đại tá PHAM NGOC HIEN

Table 5. Number of chemical staffs and their levels of skill : Total 06 chemical staffs (officers).

	Viet Nam					Laos					
Level 5											
Level 4	01										
Level 3	03		03								
Level 2	05										
Level 1	01										
Sum	6										

- Level 5 capable to carry out impurity profiling
- Level 4 capable to conduct analysis with GC/MS and IR
- Level 3 capable to make a full use of GC; that is
 - 1) to conduct quantitative analysis with calibration curve
 - 2) to make a reasonable estimate in case the results of analysis appear different from the standards
 - 3) to maintain GC for its regular wear and tear
- Level 2 capable to conduct qualitative analysis with GC
- Level 1 capable to conduct qualitative analysis with color test and TLC

-59-

Director of Sub-Institute of Forensic Science
 Ministry of Interior - Viet Nam
 258 - Nguyen Trãi road - dist-1
 HO CHI MINH CITY - VIET NAM



[Handwritten signature]

Đại Tá: PHẠM NGỌC HIỀN

3 ヴィエトナム薬物鑑定機関/ホーチミン

Date : 26/10/2001 Informant : Ass. Prof. Hoang Manh Hung Laboratory : Drug Laboratory of Institute of Forensic Science, Vietnam.

Please choose your situation on your drug analysis from A, B, C or D.

(1) Amphetamine Type Stimulants

(A; being often implemented, B; possible but seldom implemented, C; impossible, D: technically possible but not necessary)

Analytical Methods and Reagents	non-ring substituted ATS		ring substituted ATS				
	1	color test	(A/B/C/D)	1	color test	(A/B/C/D)	
		Marquis reagent	(A/B/C/D)		Marquis reagent	(A/B/C/D)	
		Simon's reagent	(A/B/C/D)		Simon's reagent	(A/B/C/D)	
		Other reagents			Sulfuric acid	(A/B/C/D)	
		Other reagents			Other reagents		
		2	chloride or sulfate	(A/B/C/D)	2	chloride or sulfate	(A/B/C/D)
		silver nitrate solution	(A/B/C/D)		silver nitrate solution	(A/B/C/D)	
		barium chloride solution	(A/B/C/D)		barium chloride solution	(A/B/C/D)	
		Other reagents			Other reagents		
		3	melting-point	(A/B/C/D)	3	melting-point	(A/B/C/D)
		4	TLC(Thin Layer Chromatography)	(A/B/C/D)	4	TLC(Thin Layer Chromatography)	(A/B/C/D)
		acetone-toluene(benzene)-28% aq. ammonia (20:10:1)	(A/B/C/D)		acetone-toluene(benzene)-28% aq. ammonia (20:10:1)	(A/B/C/D)	
		Other solvent system			Other solvent system		
		Simon's reagent	(A/B/C/D)		Simon's reagent	(A/B/C/D)	
		Fluorescamine reagent	(A/B/C/D)		Fluorescamine reagent	(A/B/C/D)	
		Dragendorff reagent	(A/B/C/D)		Dragendorff reagent	(A/B/C/D)	
		Other reagents	<i>Ninhydrin</i>		Other reagents	<i>Ninhydrin</i>	
	5	GC (Gas Chromatography)	(A/B/C/D)	5	GC (Gas Chromatography)	(A/B/C/D)	
	Trifluoroacetic anhydride	(A/B/C/D)		Trifluoroacetic anhydride	(A/B/C/D)		
	Other reagents			Other reagents			

6	GC/MS Chromatography/Mass Spectrometry)	(Gas	(A/B/C/D)	6	GC/MS Chromatography/Mass Spectrometry)	(Gas	(A/B/C/D)
	Trifluoroacetic anhydride		(A/B/C/D)		Trifluoroacetic anhydride		(A/B/C/D)
	Other reagents				Other reagents		
7	IR (InfraRed)		(A/B/C/D)	7	IR (InfraRed)		(A/B/C/D)
	KBr		(A/B/C/D)		KBr		(A/B/C/D)
	Other reagents				Other reagents		
				8	HPLC (High Performance Liquid Chromatography)		(A/B/C/D)
					ammonium acetate		(A/B/C/D)
					acetonitrile		(A/B/C/D)
					Other reagents		
8	Microcrystalline Test		(A/B/C/D)	9	Microcrystalline Test		(A/B/C/D)

Any other analytical methods, and reagents ?

(2) opium and opiates

(A; being often implemented, B; possible but seldom implemented, C; impossible, D; technically possible but not necessary)

	opium			morphine			heroin		
Analytical Methods and Reagents	1	color test	(A/B/C/D)	1	color test	(A/B/C/D)	1	color test	(A/B/C/D)
		Marquis reagent	(A/B/C/D)		Marquis reagent	(A/B/C/D)		Marquis reagent	(A/B/C/D)
		Mecke's reagent	(A/B/C/D)		Mecke's reagent	(A/B/C/D)		Mecke's reagent	(A/B/C/D)
		Frohde's reagent	(A/B/C/D)		Frohde's reagent	(A/B/C/D)		Frohde's reagent	(A/B/C/D)
		Other reagents	<i>Dragendorff</i>		Other reagents			Other reagents	<i>Dragendorff</i>
	2	TLC	(A/B/C/D)	2	TLC	(A/B/C/D)	2	TLC	(A/B/C/D)
		methanol-28% aq. Ammonia (100:1.5)	(A/B/C/D)		methanol-28% aq. Ammonia (100:1.5)	(A/B/C/D)		methanol-28% aq. Ammonia (100:1.5)	(A/B/C/D)
		toluene(benzene)-dioxane-ethanol-28% aq. ammonia (50:40:5:5)	(A/B/C/D)		toluene(benzene)-dioxane-ethanol-28% aq. ammonia (50:40:5:5)	(A/B/C/D)		toluene(benzene)-dioxane-ethanol-28% aq. ammonia (50:40:5:5)	(A/B/C/D)
		Other solvent system			Other solvent system			Other solvent system	
		Dragendorff reagent	(A/B/C/D)		Dragendorff reagent	(A/B/C/D)		Dragendorff reagent	(A/B/C/D)
		potassium iodoplatinate reagent	(A/B/C/D)		potassium iodoplatinate reagent	(A/B/C/D)		potassium iodoplatinate reagent	(A/B/C/D)
		ferric chloride solution	(A/B/C/D)						
		Other reagents			Other reagents			Other reagents	
	3	HPLC	(A/B/C/D)	3	IR	(A/B/C/D)	3	IR	(A/B/C/D)
					KBr	(A/B/C/D)		KBr	(A/B/C/D)
					Other reagents			Other reagents	

4	GC/MS	(A/B/ <input checked="" type="radio"/> /D)	4	GC/MS	(A/B/ <input checked="" type="radio"/> /D)	4	GC/MS	(A/B/ <input checked="" type="radio"/> /D)
	N-O-bis-(trimethylsilyl)-acetoamide (BSA)	(A/B/C/D)		N-O-bis-(trimethylsilyl)-acetoamide (BSA)	(A/B/C/D)			
	Other reagents			Other reagents			Other reagents	
5	Microcrystalline Test	(A/B/ <input checked="" type="radio"/> /D)	5	Microcrystalline Test	(A/B/ <input checked="" type="radio"/> /D)	5	Microcrystalline Test	(A/B/ <input checked="" type="radio"/> /D)

Any other analytical methods, and reagents ?

(3) Cannabis

(A; being often implemented, B; possible but seldom implemented, C; impossible, D; technically possible but not necessary)

Analytical Methods and Reagents	Leaves		Resin				
	Method	Reagents	Method	Reagents			
	1	Microscopic observation	(A/B/C/D)	1	color test	(A/B/C/D)	
		sodium hydroxide	(A/B/C/D)		Beam reagent	(A/B/C/D)	
					Duquenois reagent	(A/B/C/D)	
					Ghamrawy reagent	(A/B/C/D)	
		Other reagents			Other reagents	<i>Fast blue salt B.</i>	
	2	color test	(A/B/C/D)	2	TLC	(A/B/C/D)	
		Beam reagent	(A/B/C/D)		toluene(benzene)-hexane -diethylamine(25:10:1)	(A/B/C/D)	
					Other solvent system		
		Duquenois reagent	(A/B/C/D)		Fast Blue B salt reagent	(A/B/C/D)	
		Ghamrawy reagent	(A/B/C/D)			Other reagents	
		Other reagents	<i>Fast blue salt B.</i>				
		3	TLC		(A/B/C/D)	3	GC/MS
	toluene(benzene)-hexane -diethylamine(25:10:1)		(A/B/C/D)	4	Microcrystalline Test		(A/B/C/D)
	Other solvent system		<i>Petrol ether. Toluene.</i>				
	Fast Blue B salt reagent		(A/B/C/D)				
Other reagents							
4	GC/MS	(A/B/C/D)					
5	Microcrystalline Test	(A/B/C/D)					

Any other analytical methods, and reagents ?

(4) Cocaine

(A; being often implemented, B; possible but seldom implemented, C; impossible, D; technically possible but not necessary)

Analytical Methods and Reagents	1	color test	(A) / B / C / D
		Cobalt thiocyanate reagent	(A) / B / C / D
		Other reagents	
	2	TLC	(A) / B / C / D
		Cobalt thiocyanate reagent	(A) / B / C / D
		methanol-ammonia solution(100:1.5)	(A) / B / C / D
		toluene(benzene)-dioxane-ethanol-ammonia sol.(50:40:5:5)	(A) / (B) / C / D
		chloroform-methanol-ammonia solution(100:20:1)	(A) / B / C / D
		Other solvent system	
		Dragendorff reagent	(A) / B / C / D
		potassium iodoplatinate reagent	(A) / (B) / C / D
		Other reagents	
	3	GC/MS	(A) / B / (C) / D
	4	Microcrystalline Test	(A) / B / (C) / D

Any other analytical methods, and reagents ?

Another questions

1. Do you have manuals for drug analysis? If yes, please make a copy for us.
2. Do you utilize UNDCP Bluebook for drug analysis?
3. Are there any drug test kits commercially available? If yes, what kind of drugs?
4. Do you examine ephedrine as a routine analysis?
5. Could you handle biological materials for drug tests? *ATK*
6. What is your problem in performing drug analysis?
Equipment
Standards for drug qualification and quantification
7. Do you have regular training courses for drug analysis?
How many times
Could you show me the details of training?
Do you have manuals for drug analysis training?
8. If not, how do you train your chemical staff?

We have been given you already.

yes.

yes, opiat, ATS-group, Cocain, Cannabis.

yes.

We have examine biological specimens for drug test

It lacks us necessary equipment such as GC-MS, HPLC, EC...

We have a little of referent standards.

yes.

From 1 to 4-5 times per year after needs.

We have given some training materials to you. ; - yes

Table 1. Number of criminal cases

	methamphetamine	amphetamine	other ATS	opium	morphine	heroin	cannabis		cocaine
							leaves	resin	
2000	14	0	0	390	02	499	01	0	0
1999	05	0	0	584	0	573	05	0	01
1998	0	0	0	925	0	420	05	0	0
1997	0	0	0	538	05	318	15	0	0
1996	0	0	0	230	03	75	2	0	0

Table 2. Number of drug analyses (submission of expert reports)

	methamphetamine	amphetamine	other ATS	opium	morphine	heroin	cannabis		cocaine
							leaves	resin	
2000	50	0	0	2.500	4	2.700	2	0	0
1999	20	0	0	2.900	0	3.430	22	0	01
1998	02	0	0	3.040	0	2.061	10	0	0
1997	01	01	0	1.728	33	2.362	146	0	0
1996	0	0	0	804	39	381	13	0	0

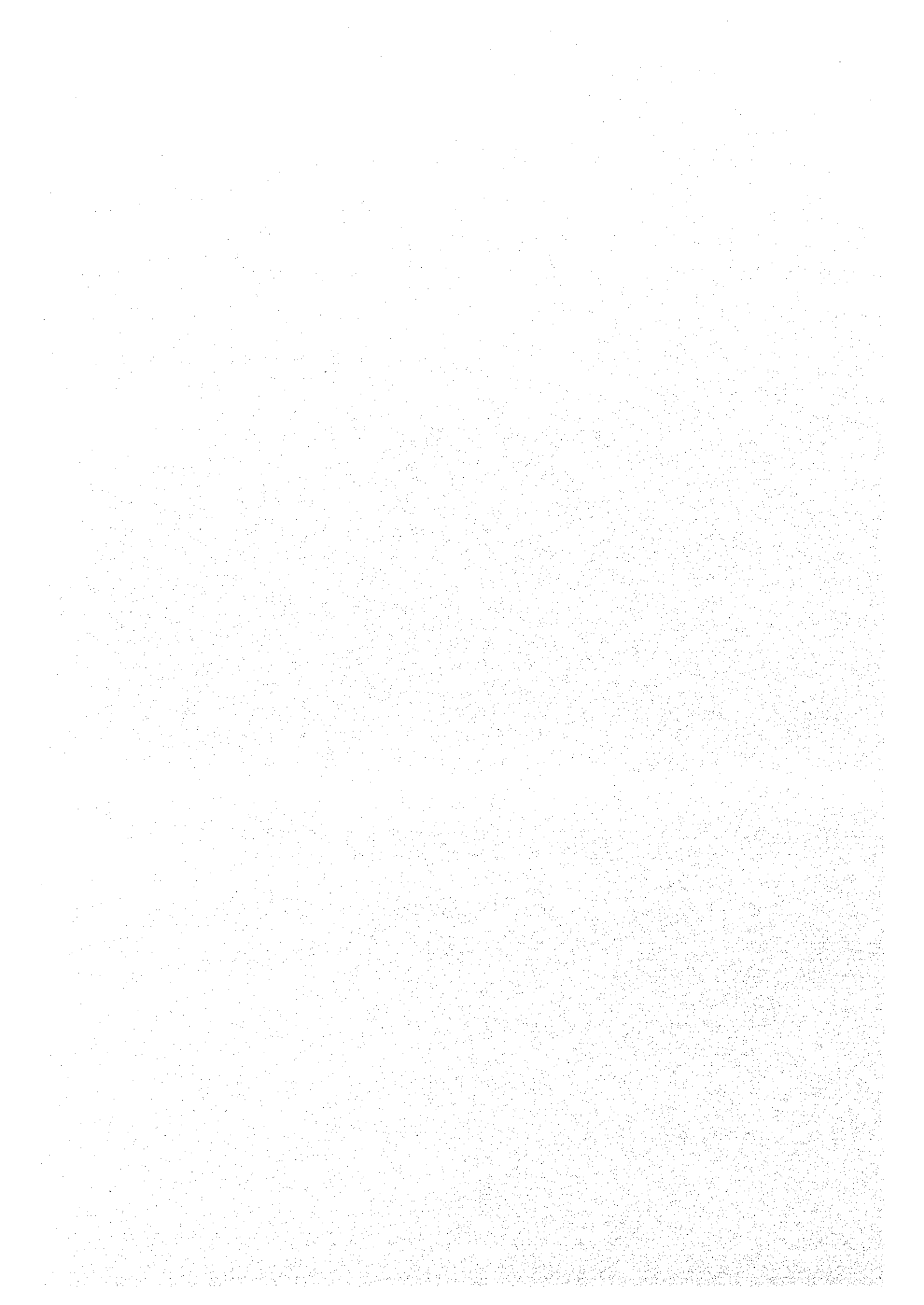
Table 5. Number of chemical staffs and their levels of skill

	Viet Nam 22					Laos							
	16 (North)			6 (South)									
Level 5													
Level 4	4				1								
Level 3	9	9		5	1								
Level 2	21	16			5								
Level 1	21												
Sum	22												

- 68 -

- Level 5 capable to carry out impurity profiling
- Level 4 capable to conduct analysis with GC/MS and IR 4
- Level 3 capable to make a full use of GC; that is 9 (5)
 - 1) to conduct quantitative analysis with calibration curve
 - 2) to make a reasonable estimate in case the results of analysis appear different from the standards
 - 3) to maintain GC for its regular wear and tear.
- Level 2 capable to conduct qualitative analysis with GC 22
- Level 1 capable to conduct qualitative analysis with color test and TLC *total 22*

参 考 资 料



INFORMATION ON AREA FOCUSED TRAINING COURSE IN

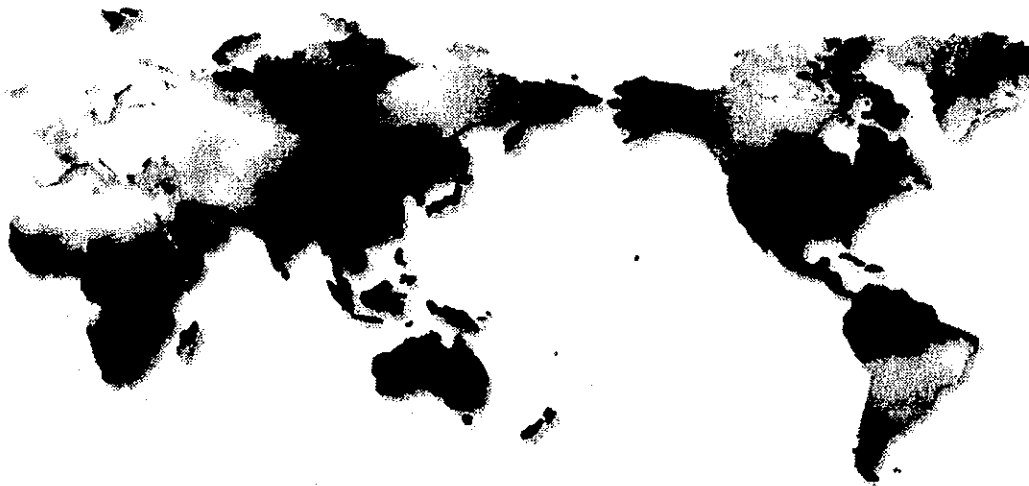
**IDENTIFICATION AND ANALYSIS OF
ABUSED DRUGS FOR INDOCHINA
REGION**

JFY 2001

国別特設： インドシナ地域・乱用薬物鑑定セミナー

COURSE NO. : J-01-20199

February 26, 2002 - March 24, 2002



THE GOVERNMENT OF JAPAN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Preface

The Japanese Government extends official development assistance (ODA) to developing countries to support self-help efforts that will lead to economic progress and a better life for the citizens of those countries.

Since its foundation in 1974, the Japan International Cooperation Agency (JICA) has implemented Japan's technical cooperation under the ODA programme.

Currently, JICA conducts such activities as training, dispatch of experts, provision of equipment, project-type technical cooperation, development study, dispatch of cooperation volunteers (JOCV), survey and administration of capital grant aid programmes.

The training programme for overseas participants is one of JICA's fundamental technical cooperation activities for developing countries. Participants come from overseas in order to obtain knowledge and technology in a wide variety of fields.

The objectives of the JICA training programme are:

- (1) to contribute to the development of human resources who will promote the advancement of developing countries, and
- (2) to contribute to the promotion of mutual understanding and friendship.

Abused drug issue has been long-standing problems in Indochina region, and it has significant negative impacts on the public security, and the socio-cultural and economic development in the countries. Illicit drugs lead a series of direct and indirect crimes, money laundering, corruption, unemployment, traffic accidents, health problems, family breakdown, orphans, and other social problems. Abused drug problems are inherently complex issue: therefore Japanese aid policy in the field of social development targets a cross-boundary , multi-sectional actions.

As one of the approach, this course aims to improve the identification and analysis of various abused drugs, as well as enhancing the international cooperation among countries in the region.

I. ESSENTIAL FACTS

Course Title (No.)	Identification and Analysis of Abused Drugs for Indochina Region (J-01-20199)
Duration	February 26, 2002 - March 24, 2002
Deadline for Application	January 15, 2002 for acceptance of the JICA office
Number of Participants	6
Language	English
Target Group	Researchers or chemists working in abused drug identification and analysis laboratory
Course Objectives	Through the seminar, participants are expected : (1) to understand the current situation and techniques on abused drug identification and analysis in Japan, (2) to obtain techniques required for identification and analysis of abused drugs and (3) to understand the laboratory system in Japan
Training Institution	<p>National Research Institute of Police Science Address : 6-3-1, Kashiwanoha, Kashiwa, Chiba, 277-0882 TEL : 81-471-35-8001 FAX : 81-471-33-9153 (81 : country code for Japan, 471 : area code)</p> <p>As the central organization of police science in Japan, it is engaged in research and development, identification and analysis, training and symposiums, and other activities by utilizing a broad range of disciplines, such as anthropology, biology, medicine, pharmacy, chemistry, physics, engineering, sociology and psychology. The institute has now established both domestic and international reputations in this field.</p> <p>National Police Agency of Japan Address : 2-1-2, Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo, 100-8974 TEL : 81-3-3581-0141 (81 : country code for Japan, 3 : area code)</p> <p>NPA is the authority to supervise and coordinate Prefectural polices, which execute police duties, such as prevention, suppression and investigation of crimes, to maintain public safety and order in each prefecture.</p>
Accommodations	<p>Tokyo International Centre (TIC) Address : 2-49-5, Nishihara, Shibuya-ku, Tokyo 151-0066, Japan TEL : 81-3-3485-7051 FAX : 81-3-3485-7904 (81 : country code for Japan, 3: area code)</p> <p>If no room is available at TIC, JICA will arrange accommodations for participants at other appropriate places.</p>
Allowances & Expenses	<p>The Government of Japan provides the following allowances and covers the following expenses through JICA in accordance with relevant laws and regulations. Details: Round-trip air ticket between an international airport designated by JICA and Japan, accommodation allowance, living allowance, outfit allowance, book allowance, shipping allowance, expenses for JICA study tours, free medical care for participants who become ill after arrival in JAPAN (costs related to preexisting illness, pregnancy and dental treatment are not included), etc.</p>

II. CURRICULUM

subject to change

1. Lectures and Practices

- (1) Analysis of Amphetamine-Type Stimulants**
- (2) Methamphetamine Impurity Profiling**
- (3) Physical Characteristics of Rapping Materials**
- (4) Analysis of Opium Alkaloids**
- (5) Analysis of Marijuana**
- (6) Drug Screening Test**

2. Country Report Presentation

3. Observation

- (1) Analytical Instrument Manufacturer (GC-MS, LC-MS. etc.)**

4. Others

- (1) Study Tour to a Prefectural Police**
- (2) Study Tour to Forensic Science Laboratory**
- (3) Discussions**

Tentative Schedule for
Identification and Analysis of Abused Drugs for Indochina Region

Date		Subject	Institution	Place
Feb.	26(Tue)	Arrival		
	27(Wed)	Briefing Programme Orientation	Tokyo International Center(TIC)	Tokyo
	28(Thu)	General Orientation		
Mar.	1(Fri)	General Orientation		
	2(Sat)	AM: Bus tour of Tokyo		
	3(Sun)	Holiday		Kashiwa, Chiba
	4 (Mon)	Course orientation and Opening ceremony Lecture: Quality Control and Quality Assurance, Current situation and techniques on identification and analysis of abused drugs in Japan.	National Research Institute of Police Science	
	5 (Tue)	Lecture: GC, HPLC (with demonstration) Country report presentation by participants		
	6 (Wed)	Lecture: mass spectrometry (with demonstration) Visit: Yokogawa Analytical Systems (Mitaka City)		
	7 (Thu)	Lecture: infrared spectroscopy (with demonstration), amphetamine-type stimulants, opium alkaloids, marijuana, methamphetamine impurity profiling		
	8 (Fri)	Practice: amphetamine-type stimulants, marijuana		
	9 (Sat)	Holiday		
	10 (Sun)	Holiday		
	11 (Mon)	Now planning		
	12 (Tue)	Practice: quantitative analysis of methamphetamine, methamphetamine impurity profiling	National Research Institute of Police Science	
	13 (Wed)	Practice: opium alkaloids		
	14 (Thu)	Lecture and Practice: physical characteristics of rapping materials		
	15 (Fri)	Practice: drug screening test Closing ceremony		
	16(Sat)	Holiday (move to Kyoto)		Kyoto
	17(Sun)	Holiday (sight-seeing in Kyoto)		Kyoto
	18(Mon)	Visit: Shimadzu Corporation	Simadzu	Hyogo
	19(Tue)	Visit to Prefectural Police Headquarters Visit to Forensic Science Laboratory	Hyogo Police HQ, Forensic Science Laboratory	Hyogo
	20(Wed)	Visit to Forensic Science Laboratory		Hyogo
	21(Thu)	Move to Tokyo (Holiday)		Tokyo
	22(Fri)	Discussion Evaluation Meeting, Closing Ceremony	TIC	Tokyo
	23 (Sat)	Preparation for Departure		Tokyo
	24(Sun)	Departure		Departure

III. REQUIREMENT FOR APPLICATION

Applicants should :

- (1) be nominated by their government in accordance with the procedures mentioned in IV-1 below,
- (2) be researchers or chemists working in abused drug identification and analysis laboratory,
- (3) be presently engaged in abused drug identification and analysis, and have 3 to 5 years of professional experience in the field,
- (4) be university graduates or those with equivalent knowledge,
- (5) have a sufficient command of spoken and written English,
- (6) be in good health, both physically and mentally, to undergo the training.
- (7) not be serving in any form of military services.

ATTENTION

Participants are required ;

- (1) not to change course subjects or extend the course period,
- (2) not to bring any members of their family,
- (3) to return to their home countries at the end of their course according to the international travel schedule designated by JICA,
- (4) to refrain from engaging in political activities or any form of employment for profit or gain, and
- (5) to observe the rules and regulations of their place of accommodation and not to change accommodations designated by JICA.

IV. PROCEDURES FOR APPLICATIONS

1. Government desiring to nominate applicants for the course should fill in and forward one(1) original and three (3) copies of the Nomination Form (Form A2A3) for each applicant, to JICA office by **January 15, 2002**.

2. JICA office will inform the applying government whether or not the nominee's application has been accepted no later than **January 25, 2001**.

3. Organization Chart

Applicants are required to draw a chart of the organization to which they belong, explaining the rank system of their organization, and attach it to the Nomination form.

4. Country Report

Applicants are requested to prepare a country report in accordance with the directions provided in **ANNEX I** and submit it together with the Nomination Form. As the report will be used for the screening of applicants and as presentation material, applications not accompanied by the country reports will **not** be considered as duly qualified.

Also the participants will be requested to present a country report during the training course (20 minutes for each participant) . Use of Powerpoint, or OHP, slides is recommended.

* It is desirable to submit a copy of the Drug Control Law in the applicant's country (preferably in English) together with the country report.

<Note>

- The Nomination Form should be typewritten in English.
- The rank and position of applicants in their organization are required to be specified in the column of "Title of Present Job" on a page 2 of the Nomination Form.

V. OTHER MATTERS

1. Pre-departure orientation is held at JICA overseas offices (or the Embassy of Japan) to provide the selected candidates with details on travel to Japan, conditions of training, and other matters. Participants will see a video, "TRAINING IN JAPAN", and will receive a textbook and cassette tape, "SIMPLE CONVERSATION IN JAPANESE". A brochure, "GUIDE TO TRAINING IN JAPAN" will be handed to each selected candidate before (or at the time of) the orientation.
2. Participants who have successfully completed the course will be awarded a certificate by JICA.

**Identification and Analysis of Abused Drugs for Indochina Region
(JFY 2001)**

Country Report

- (1) Name of applicant / organization
- (2) Roles and responsibilities of your organization
- (3) Organization chart
- (4) Outline of system and organization for abused drug identification and analysis in your country
(include all the organizations which is in charge of abused drug identification and analysis)
- (5) Trends of abused drug in your country
- (6) Procedure of identification and analysis in your laboratory
- (7) Staff training system of the identification and analysis laboratory

* Participants will be requested to have 20 minute presentation of the country report.
Use of Powerpoint, OHP or slides is recommended.



CORRESPONDENCE

For enquiries and further information, please contact the JICA office or the Embassy of Japan. Further, address correspondence to:

**Tokyo International Centre (TIC),
Japan International Cooperation Agency (JICA)**

Address : 2-49-5, Nishihara, Shibuya-ku, Tokyo 151-0066,
Japan

TEL : 81-3-3485-7051 FAX : 81-3-3485-7904

